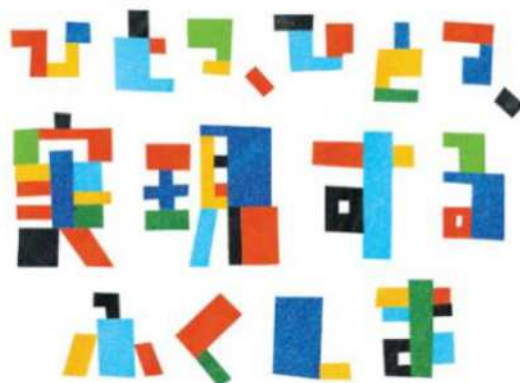


福島県文化振興基本計画 の進行管理について

育み、つなぎ、創造していく「ふくしまの文化」

～人と地域が元気にあふれ、心豊かなふくしまへ～



福島県文化振興基本計画の施策体系

基本目標

育み、つなぎ、創造していく「ふくしまの文化」
～人と地域が元気にあふれ、心豊かなふくしまへ～

施策展開の視点

◆ 県民一人一人が文化の担い手

◆ 多様で特色ある地域資源・文化施設をいかす

◆ 文化振興を地域の活性化にいかす

施策体系

1 県民の文化活動の促進 条例第7条 第2項第2号	2 芸術の鑑賞 その他文化 に接する機 会の拡充 条例第7条 第2項第3号	3 青少年の文 化活動の促 進 条例第7条 第2項第7号	4 伝統文化の 継承及び発 展 条例第7条 第2項第4号	5 生活文化の 充実 条例第7条 第2項第5号	6 文化活動を 行う拠点の 機能の充実 条例第7条 第2項第8号	7 文化の交流 の推進 条例第7条 第2項第6号	8 文化振興に よる地域づ くり 条例第7条 第2項第9号
(1)文化意識 の醸成		(1)鑑賞機会 等の充実	(1)伝統文化 の継承と発 展	(1)食文化の 継承と振興		(1)文化の発 信と交流の 充実	
(2)文化の振 興を担う人 材の育成・ 確保	優れた文化 芸術に親し む機会の充 実				文化施設の 機能の充 実・連携の 促進		文化資源を いかした産 業等の振 興・地域づ くり
(3)文化活動 への支援の 充実		(2)学校教育 等における 文化活動の 促進	(2)文化財の 保存と活用	(2)生活文化 等の振興		(2)東日本大 震災・原子 力災害から の復興と教 訓の発信	

デジタル技術の活用の促進

デジタル技術を活用した創作活動の促進、活動成果の発表・鑑賞機会の充実、記録・映像の保存の充実、交流の促進 など

SDGsの理念（誰一人取り残さない、多様性と包摂性のある持続可能な社会）の反映
性別や年齢、障がい等に関わりなく文化活動に取り組める環境づくり、多様な価値観の尊重、文化遺産の保護・保全 など

推進施策 1 県民の文化活動の促進

県民の文化活動が促進されるよう各種施策に取り組みます。

- (1) 文化意識の醸成
- (2) 文化の振興を担う人材の育成・確保
- (3) 文化活動への支援の充実

令和 7 年度の主な取組実績

※ 主な取組実績の () の金額は、令和 6 年度の決算額（以降、同様）

(1) 文化意識の醸成

○ 第 64 回福島県芸術祭（文化振興課）【1, 000 千円】

県民による文化の公演発表等の促進、県民への芸術鑑賞機会の提供及び芸術文化団体等の活動促進を目的として開催し、もって本県における芸術文化の振興を図っています。

- 主催行事：35 件、参加行事：92 件
- 開幕式典・開幕行事：令和 7 年 9 月 7 日（日）

矢吹町文化センター大ホール 入場者数約 800 名

○ 県民カレッジ推進事業（生涯学習課）【予算なし】

県民の多様な学習ニーズや学習活動の広域化に対応していくため、県・市町村・大学等高等教育機関、民間教育機関等が連携・協力し、県民が主体的、継続的に学習活動に取り組めるよう、生涯学習に関する情報や学習機会を提供しています。

- 「県民カレッジ連携講座」：ふくしまナビ i 上に 1, 531 件掲載
- 「県民カレッジ情報ボックス」：18 件掲示

○ 学びあう生涯学習社会形成事業（生涯学習課）【1, 328 千円】

福島県生涯学習情報システム（ふくしまナビ i）生涯学習推進状況及び講座内容の分析のための各種機能を搭載し、講座を主催する市町村等が学習者のニーズに応じた魅力ある講座を県民に提供することにより、県民の学習参加と成果活用を促進し、自己実現と地域発展を支える本県生涯学習社会の実現を図っています。

- ふくしまナビ i 管理画面内に EUC 抽出機能、ページビュー機能、登録者分類別表示機能を実装し、県内の生涯学習関連情報の提供を行った。
 - ◆ アカウント付与数：市町村 309、県 103、民間教育施設・高等教育機関・民間企業 68
 - ◆ 登録団体数：市町村 59、県 16、民間教育施設・高等教育機関・民間企業 57
 - ◆ 講座・イベント登録数：12, 538（非公開 9, 751 公開 2, 787）

(2) 文化の振興を担う人材の育成・確保

○ アートマネジメント人材育成モデル事業（文化振興課）【15, 000 千円】

公共ホール職員のアートマネジメント能力（企画・制作能力及びコーディネート能力）の向上を目的として、（公財）福島県文化振興財団及び（一財）地域創造と共催で、研修会やアウトリーチを実施しています。

- 各開催館で募集した地元の小・中学生を対象にした事前ワークショップという形で、本番公演の一部を地元出演者とともに制作し、本番公演を実施した。

- ◆ 公演名 『はまなかあいつで「四季」全楽章を踊る』

- ◆ 実施団体 （公財）福島県文化振興財団、（公財）会津若松文化振興財団、（公財）南相馬市文化振興事業団、三春町教育委員会

（３）文化活動への支援の充実

○ 福島県文化功労賞表彰（文化振興課）【１，５０３千円】

本県の文化の振興・発展を図るため、多年にわたり本県文化の向上に著しい業績を表した個人を表彰しています。

- 教育（社会教育） 鬼多見賢氏（猪苗代町 県環境アドバイザー）
- 体育（スポーツ） 佐藤傳一氏（伊達市 県馬術連盟顧問）

○ 顕彰事業（公益財団法人福島県文化振興財団）【財団予算】

県民の文化活動が自主的に活発に推進されるよう、文化活動に関し優れた成果を収め、本県文化の普及、向上、保存及び伝承に貢献した個人または文化団体等を表彰しています。

- 個人４名を表彰

○ 助成事業（公益財団法人福島県文化振興財団）【財団予算】

県民の文化活動が自主的に活発に推進されるよう、個人または文化団体等の活動を援助・奨励し、本県文化の普及、向上、保存を図っています。

- 文化団体等の事業６２件への助成。

令和８年度の主な取組

- 第６５回福島県芸術祭（文化振興課）【１，０００千円】
- 県民カレッジ推進事業（生涯学習課）【予算なし】
- 学びあう生涯学習社会形成事業（生涯学習課）【４３２千円】
- 福島県文化功労賞表彰（文化振興課）【１，８１２千円】
- 顕彰事業（公益財団法人福島県文化振興財団）
- 助成事業（公益財団法人福島県文化振興財団）

※ 主な取組の（ ）の金額は、令和８年度予算額（以降、同様）

指標から見た施策の進捗状況

【指標の評価方法】 A: 100%以上 B: 99～80% C: 79～70% D: 69%以下

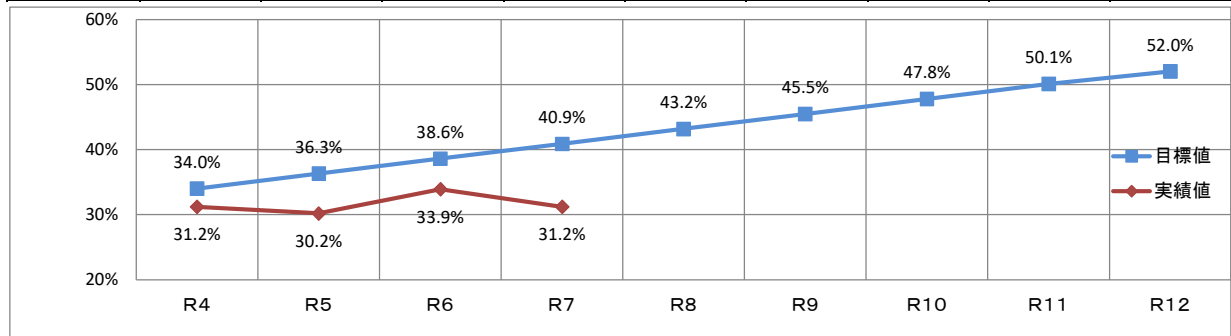
No.1 文化活動やスポーツ活動に積極的に参加していると回答した県民の割合(鑑賞を含む)【目標値: 52.0%以上(令和12年度)】

評価

C

※県総合計画指標(県政世論調査による意識調査項目)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	34.0%	36.3%	38.6%	40.9%	43.2%	45.5%	47.8%	50.1%	52.0%
実績値	31.2%	30.2%	33.9%	31.2%					



達成状況	・実績値が伸び悩んでいる一因として、美術等への理解を深め、親しむ機会が少ないことが考えられることから、県内にある美術館や博物館などを気軽に訪れ、直接アートに触れる機会を創出する取組などを進めてきたが、前年度から2.7ポイント減となり、目標値には到達しなかった。
今後の取組	・引き続き、芸術文化の鑑賞機会、活動機会の拡充に継続して取り組み、あらゆる県民が身近に文化に触れ親しむことができる環境づくりを進めていく。 ・市町村や各ホールと連携し、県民の主体的な文化活動につながるワークショップを行うなど住民参加・体験型事業の拡充に努めていく。 ・次代の文化の担い手となる青少年の文化活動を促進し、生涯にわたり文化に高い関心を持つ環境づくりを進めていく。

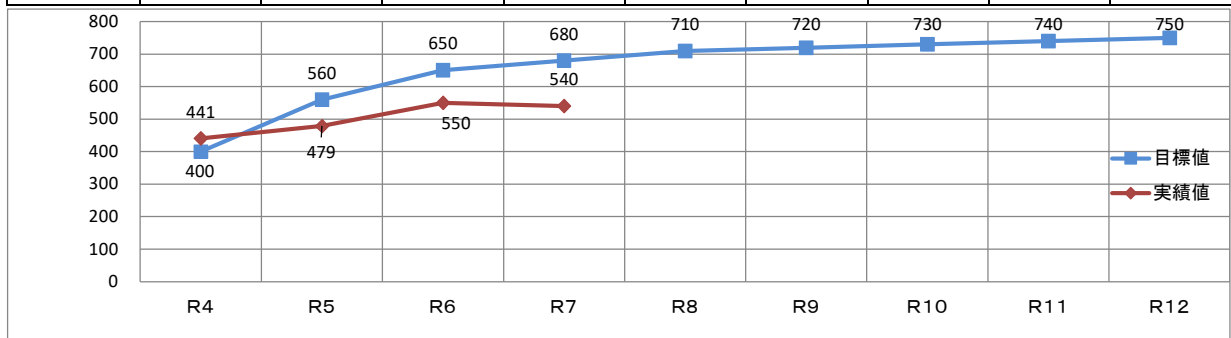
No.2 市町村生涯学習講座受講者数(人口千人当たり)【目標値: 750人(令和12年度)】

評価

C

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	400	560	650	680	710	720	730	740	750
実績値	441	479	550	540					



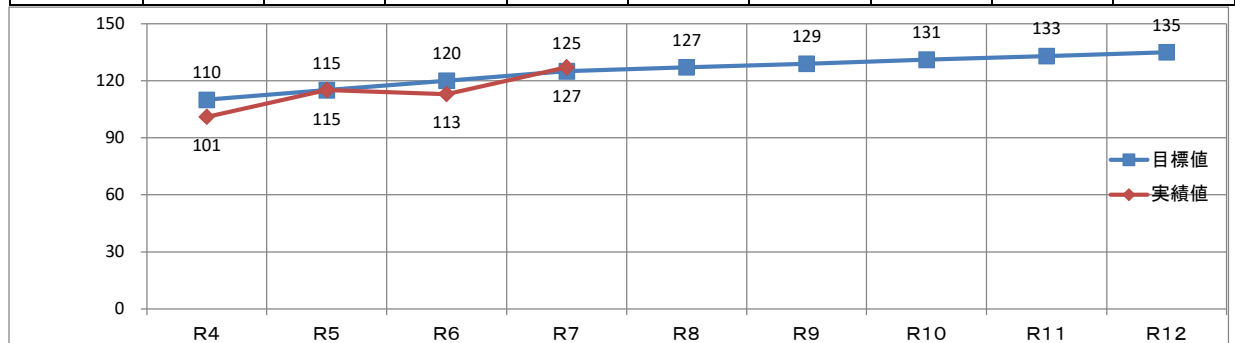
達成状況	・令和5年度は、コロナが5類感染症に位置づけられたことに伴い、行動制限が緩和され、県内各地において、それまで自粛や中止となっていた講座やイベントが再開し、コロナ禍であった令和4年度比で参加者数が約109%増加した。 ・令和6年度も参加者数は伸び続け、令和5年度比の参加者数の伸び率は約115%であった。 ・令和7年度の実績は、市町村の集計方法の誤りがあったため、実績値は対前年度比で約97%となり未達成。合わせて、令和5・6年度分の実績値も誤りがあったため、それぞれ下方修正を行った。過去3年も目標値には僅かに届かなかった。
今後の取組	・福島県生涯学習情報提供サイト(ふくしまマナビ)から、県内各地で行われる講座やイベントの情報がタイムリーに発信されるよう、市町村を始め登録団体等へ情報の登録を呼びかける。 ・ふくしまマナビから講座情報等を登録・発信する方々や、サイトから情報を入手する県民の方々の利便性を向上につながるシステムの拡張及び改修等を行う。 ・より県民のニーズに応じた講座が増えるよう、市町村の要請等に応じて講座を企画する際の資料提供や市町村訪問の機会などを設ける。

No.3 福島県芸術祭参加行事数
【目標値：135件以上(令和12年度)】

評価
A

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	110	115	120	125	127	129	131	133	135
実績値	101	115	113	127					

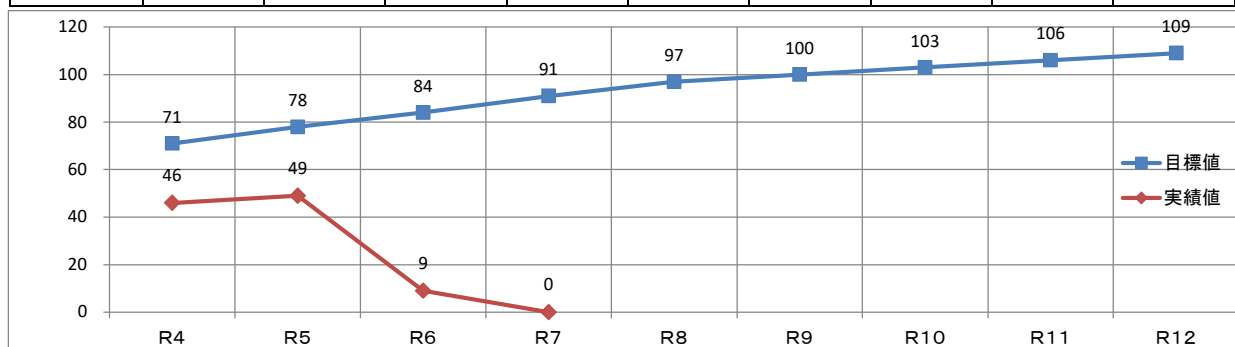


達成状況	・令和7年度は、例年より早期に募集を開始し、重点地区市町村への呼びかけや後援行事主催団体への周知などにより、昨年度比で件数が増加し、目標を達成することができた。
今後の取組	・県芸術文化団体連合会や特に重点地区内市町村と連携して、各地域で実施している文化行事の芸術祭への参加促進を図るとともに、芸術祭の認知度を高めるために、広報・周知等を行っていく。

No.9 福島県文化センター利用料金免除件数
【目標値：109件(令和12年度)】

評価
—

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	71	78	84	91	97	100	103	106	109
実績値	46	49	9	0					



達成状況	・大規模な改修工事を実施するため令和7年度は年間を通じて休館しており、実績は0件となっている。
今後の取組	・引き続き、改修工事を着実に実施する。 (令和8年9月1日に文化会館の再開を予定している。)

推進施策2 芸術の鑑賞その他文化に接する機会の拡充

県民が身近なところで容易に文化に接することができる機会を拡充します。

(1) 優れた文化芸術に親しむ機会の充実

令和7年度の主な取組実績

(1) 優れた文化芸術に親しむ機会の充実

○ 県立美術館の企画展・常設展開催（社会教育課）【78, 101千円】

特別なテーマによる企画展を開催するとともに、企画展や常設展と連動した鑑賞講座、講演会等を開催しています。

- ①企画展「THE 新版画 版元・渡邊庄三郎の挑戦」展 講演会1回、スペシャルギャラリートーク1回、ギャラリートーク2回、摺りの実演1回、落語1回
- ②企画展「福島アートアニュアル2025 site-representation 土田翔/鈴木悠哉」展 オープニングトーク1回
- ③企画展「金曜ロードショーとジブリ」展 トークショー1回
- ④企画展「生誕140年 竹久夢二のすべて 画家は詩人でデザイナー」展 講演会1回、ギャラリートーク2回
- ⑤企画展「大ゴッホ展 夜のカフェテラス」 講演会4回、映画上映会1回
- ⑥常設展 常設トーク2回、ゲストトーク1回
- ⑦特集展示 ギャラリートーク2回

○ 県立美術館の教育普及講座（社会教育課）【1, 431千円】

美術をより深く知る喜びを得る機会を提供する事業として、さまざまな講座を開催しました。また、つくる楽しみを経験する契機として、各種の実技講座や、学校と連携しての出張講座等を行っています。

- ①こどもミュージアムツアー 1回開催
- ②創作プログラム 12回開催
- ③図書館との連携講座「アートなおはなしかい」 1回開催
- ④福島県立図書館・美術館見学会 1回
- ⑤学校連携共同ワークショップ 8校、153名
- ⑥先生と考える美術館ミーティング 1回

○ 県立博物館の企画展開催経費（社会教育課）【21, 877千円】

特別なテーマによる企画展を開催するとともに、企画展と連動した講座、講演会等を開催しています。

- 3つの企画展と関連した解説会や講座・講演等のイベントを実施（イベント数31、参加者2, 105名）

○ **県立博物館の学校教育・生涯学習支援活動（社会教育課）【3, 831千円】**

学芸員による各種講座のほか、外部講師によるさまざまな講座・講演等を実施しています。

- 各分野の講座や講師派遣、ゲストティーチャーを実施した。
- 分野講座（テーマ展関連、共催・後援事業、特別講座、三の丸プロジェクト関連、その他イベント含む）82回 7,754人、講師派遣受講1,014人、ゲストティーチャー受講2,385人）

○ **第19回声楽アンサンブルコンテスト全国大会（文化振興課）【19, 198千円】**

全国トップレベルの声楽アンサンブルグループによるコンテストを開催し、音楽文化の更なる発展を図るとともに、歌うことの楽しさや「合唱王国ふくしま」を全国に発信します。

- 開催日：令和8年3月19日（木）～3月22日（日）
- 開催場所：ふくしん夢の音楽堂（福島市音楽堂）
- 19日～21日に部門別コンテスト（小学生・ジュニア、中学生、高等学校、一般の4部門）を行い、22日に本選を行った。
- 出場団体数：132団体、出場者数：1,905名、入場者数：4,857名
- オンライン配信を実施

○ **障がい者の社会参加促進事業（障がい福祉課）【12, 424千円】**

障がい者芸術文化活動の推進、ふくしま共生サポーターの養成、民間活動の支援、普及啓発活動の推進により県民の理解を深め障がいのある方が社会参加しやすい機運の醸成を図るとともに、芸術文化活動の推進を通して障がいのある方の活躍を促進し障がいのある方がいきいきと暮らせる社会の実現を目指しています。

- 障がい者芸術作品巡回展「きになる☆ひょうげんリターンズ2025」を県内3カ所で開催し、障がい者芸術作品展「きになる☆ひょうげん2024」の受賞作品を展示した。
 - ◆ 開催場所：南会津町、福島市、檜葉町
- 障がい者芸術作品展「きになる☆ひょうげん2025」
 - ◆ 開催場所：はじまりの美術館（猪苗代町）
 - ◆ 開催期間：令和7年11月22日（土）～令和8年1月18日（日）
 - ◆ 応募作品数576点 来場者数1,687名
- 障がい者芸術文化活動支援センター運営支援
 - ◆ 障がい者の芸術文化活動に関する相談支援や人材育成、情報収集・発信等を行う障がい者芸術文化活動支援センターを設置する法人へ補助を行った。

○ **うつくしま、ふくしま。健康福祉祭開催事業（健康づくり推進課）【1, 864千円】**

高齢者の健康と生きがいづくりを推進し、社会活動の振興を図るため、「福島県シルバー

美術展」を開催し、高齢者が制作している作品の展示を行っています。

- 開催場所：福島市アクティブシニアセンターA0Z
- 開催期間：令和7年9月4日（木）～9月8日（月）
- 応募作品数316点 入場者数1,102人

令和8年度の主な取組

- 県立美術館の企画展・常設展開催（社会教育課）【81,384 千円】
- 県立美術館の教育普及講座（社会教育課）【1,533 千円】
- 県立博物館の企画展開催経費（社会教育課）【35,809 千円】
- 県立博物館の学校教育・生涯学習支援活動（社会教育課）【5,253 千円】
- 第20回声楽アンサンブルコンテスト全国大会（文化振興課）【19,358 千円】
- 障がい者の社会参加促進事業（障がい福祉課）【13,082 千円】
- うつくしま、ふくしま。健康福祉祭開催事業（健康づくり推進課）【2,242 千円】

指標から見た施策の進捗状況

【指標の評価方法】 A: 100%以上 B: 99~80% C: 79~70% D: 69%以下

No.4 県立美術館の入館者数

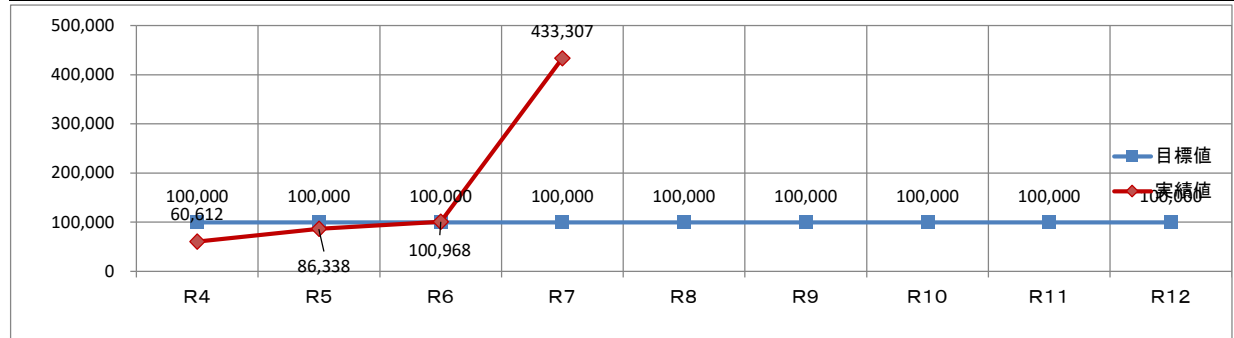
【目標値: 100,000人(令和12年度)】

評価

A

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
実績値	60,612	86,338	100,968	433,307					



達成状況

・令和7年度は、実行委員会形式による大型展「金曜ロードショーとジブリ」展及び「大ゴッホ展」を開催し、「金曜ロードショーとジブリ」展では約21万人、「大ゴッホ展」では令和7年度末時点で約12万人の来場者を記録した。そのほかにも新版画展や竹久夢二展といった、幅広いジャンルの魅力ある企画展や関連イベントの開催等により、入館者数が433,307人となり、10万人という目標をはるかに超えた。
・広報のあり方も、幅広い世代に即時効果的に発信するため、SNS等を活用した情報発信を行っている。

今後の取組

・県民等のニーズに即した大型企画展や自主企画展をバランスよく開催する。
・様々な手段で企画展の内容があらゆる年齢層に伝わるように広報する。
・団体の入館者数は上昇傾向にあるが、さらに増となる取り組みが必要である。
・継続的に来館者の多様なニーズに対応できる様々な種類の講座の開催が必要である。

No.5 県立博物館の入館者数

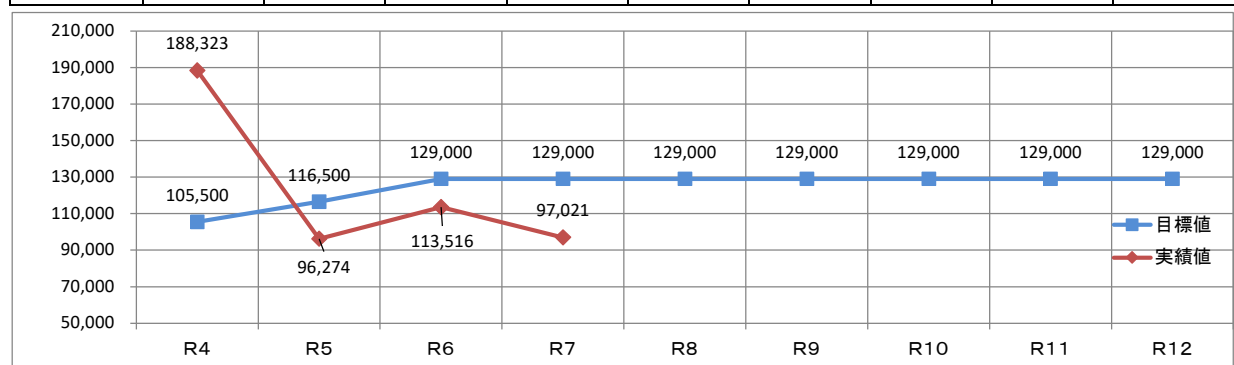
【目標値: 129,000人(令和12年度)】

評価

C

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	105,500	116,500	129,000	129,000	129,000	129,000	129,000	129,000	129,000
実績値	188,323	96,274	113,516	97,021					



達成状況

・令和6年度は施設改修等(トイレ改修及び排煙設備修繕)による閉館期間があったが、令和7年度は通年開館したことにより、館内事業利用者数は前年度比1.2倍となった。
・一方、令和7年度は前年度に比べ、館外事業(特に館外アウトリーチ事業)を小規模にとどめたため、館外事業利用者数が前年度比30,000人弱の減となった。

今後の取組

・令和8年度は実行委員会主催の大型企画展を開催することとしており、広報の強化など着実な入館者増に取り組む。
・引き続き、展示室のサイン表示・解説等の多言語化等、来館者の利便性向上と、インバウンド、外国語ユーザー増にもつなげていく。
・令和7年度は小規模にとどめた博物館事業(アウトリーチ事業等)についても強化し、令和6年度並みの実施を目指していく。

No.6 東日本大震災・原子力災害伝承館の入館者数
【目標値: 101,000人(令和12年度)】

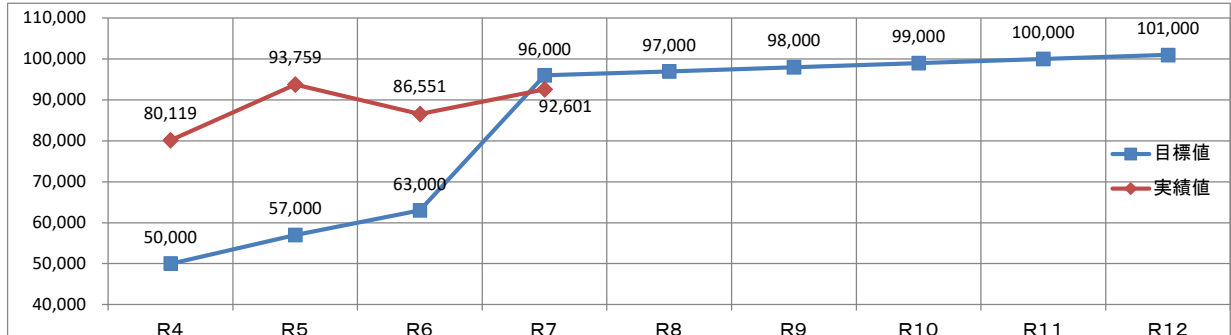
評価

B

※県総合計画指標

令和7年度～ 指標目標値見直し

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	50,000	57,000	63,000	96,000	97,000	98,000	99,000	100,000	101,000
実績値	80,119	93,759	86,551	92,601					



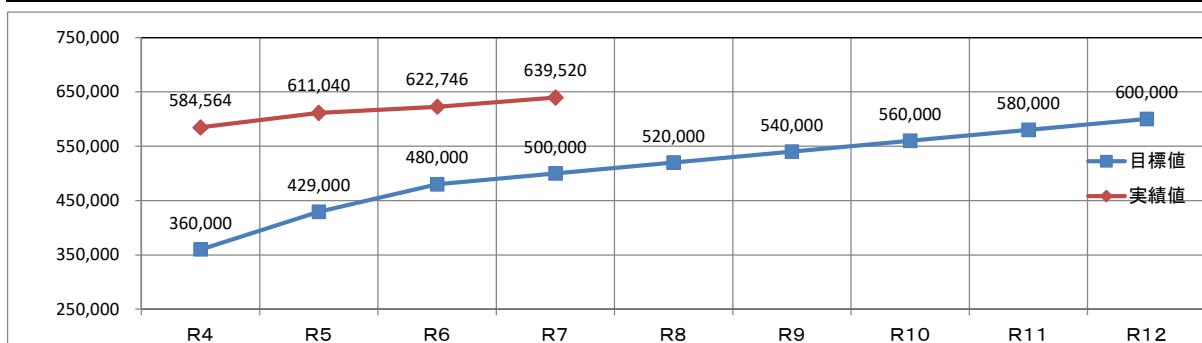
達成状況	・令和7年度、入館者数の目標値を見直した。 ・令和7年度の入館者数としては、92,601人(前年度比106.9%)となり、開館以来2番目の多さとなった。 ・令和7年7月30日のカムチャツカ半島沖地震に伴う津波注意報と津波警報の発令や、12月9日の初の「北海道・三陸沖後発地震注意情報」の発令、令和8年3月11日に震災と東京電力福島第一原子力発電所事故から15年となったことなど、自然災害や東日本大震災への注目が高まったことが原因と考えられ、特に個人の来館者が増えた。
今後の取組	・県が推進するホープツーリズムの中核施設であり、「学びの施設」としての伝承館の質・魅力を向上させていくため、分かりやすい展示内容の更新、語り部の研修、魅力的な企画展やロビー展の開催に加え、研究事業とタイアップした研修プログラムの充実を図る。 ・イベントに併せたニュースリリースに加え、ホームページの充実やインターネット広告などにより、周知を図る。 ・「事前学習プログラム」も活用しながら、教育旅行の誘客活動を進めていく。

No.7 アクアマリンふくしまの入館者数
【目標値: 600,000人(令和12年度)】

評価

A

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	360,000	429,000	480,000	500,000	520,000	540,000	560,000	580,000	600,000
実績値	584,564	611,040	622,746	639,520					



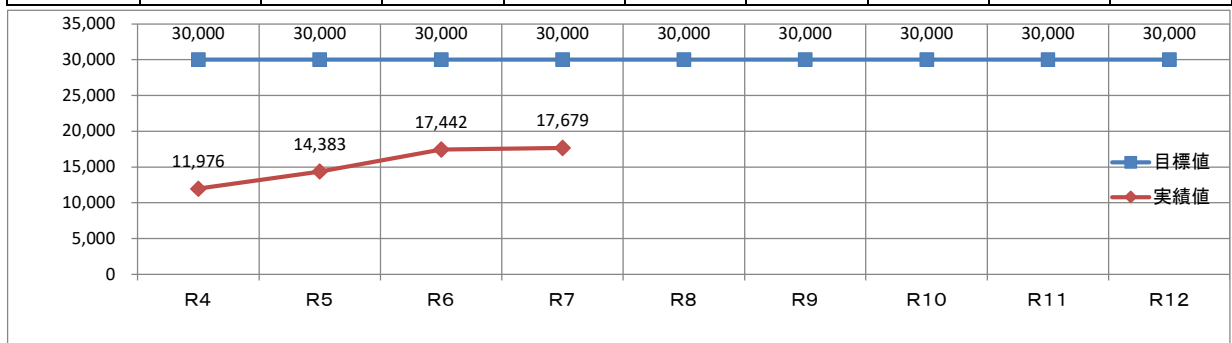
達成状況	・令和7年度の入館者数は、魅力的な企画展の開催、積極的な情報発信等により伸び、目標を達成した。
今後の取組	・3月にリニューアルオープンした「アクアマリンえっぐ」などにより誘客を進めるほか、引き続き施設の魅力を向上させていく。 ・魅力ある企画開催事業を展開し、近隣施設と連携した情報発信を行っていく。 ・博物館法上の博物館として、学術的取組を始め、地域の観光・交流拠点としての役割を果たしていく。

No.8 県文化財センター白河館の入館者数
【目標値: 30,000人(令和12年度)】

評価
D

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000
実績値	11,976	14,383	17,442	17,679					

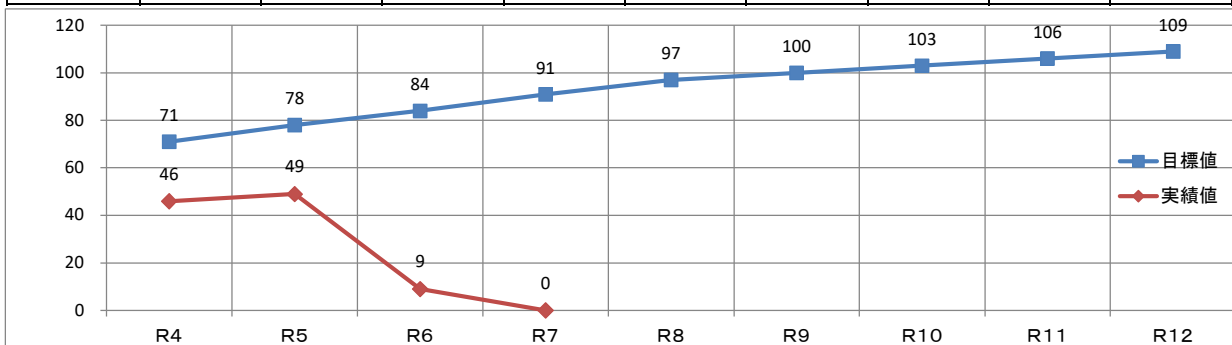


達成状況	・白河館の入館者数は、新型コロナウイルスが蔓延した令和2年度には前年度比△12,430人の11,249人であった。令和5年度以降は増加傾向に転じているものの、未だコロナ禍前の水準には戻っていない。入館者数に占める学校等団体利用の割合は、令和元年度で29%であったが、令和7年度には13%となっており、団体利用の減少が続いている。 ・バス代補助の減少、教育カリキュラムの変更等により団体利用の増加が難しい中、「U-15の考古学 発掘調査で何がわかる？」展、「ふくしまの縄文・弥生時代—只見川流域の遺跡—」展等の魅力的な企画の実施により、令和7年度の入館者数は17,679人と前年度比で微増とすることができた。
今後の取組	・指定管理者と連携し、県文化財センター白河館の強みを生かした魅力ある展示の企画、館長講演会など広域かつ幅広い年齢層の文化財への理解の増進に努めるとともに、ファミリー層に訴求するイベント開催、重点的な広報により入館者数の増を目指す。 ・指定管理者である福島県文化振興財団には、企画力及び広報力向上のために文化庁主催のセミナーや研修を受けるよう促すとともに、常設展示室の一部を企画展と連動して活用するなどの助言を進めていく。

No.9 福島県文化センター利用料金免除件数
【目標値: 109件(令和12年度)】

評価
—

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	71	78	84	91	97	100	103	106	109
実績値	46	49	9	0					

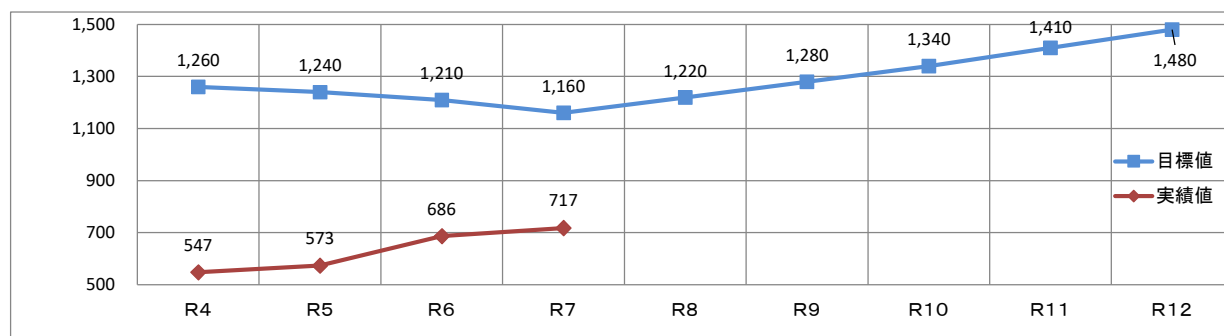


達成状況	・大規模な改修工事を実施するため令和7年度は年間を通じて休館しており、実績は0件となっている。
今後の取組	・引き続き、改修工事を着実に実施する。 (令和8年9月1日に文化会館の再開を予定している。)

No.10 声楽アンサンブルコンテスト全国大会のライブ配信視聴者数
【目標値:1,480人(令和12年度)】

評価
D

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	1,260	1,240	1,210	1,160	1,220	1,280	1,340	1,410	1,480
実績値	547	573	686	717					



達成状況	・令和7年度は、多くの方が来場し鑑賞して頂いた結果、ライブ配信視聴者数は前年度より伸びたが、目標値には届かなかった。
今後の取組	・出演する団体の保護者など出場団体関係者へのより効果的な周知、SNSを活用した情報発信、全日本合唱連盟や各都道府県合唱連盟と連携したPRなど、きめ細かで積極的な広報を行い、大会及び合唱王国ふくしまの認知度向上を図り、来場者数、配信視聴者数の増加を目指す。

推進施策3 青少年の文化活動の促進

青少年が身近な地域や学校において、その地域で育まれてきた文化を始め多様な文化に接する機会の充実を図るとともに、主体的に文化活動ができるよう環境の整備を図ることにより、青少年の文化活動を促進します。

- (1) 鑑賞機会等の充実
- (2) 学校教育等における文化活動の促進

令和7年度の主な取組実績

(1) 鑑賞機会等の充実

○ 第79回福島県総合美術展覧会（文化振興課）【25, 128千円】

県内在住者及び県出身者から美術作品を公募し、一般に展覧することにより、本県美術の振興を図るとともに、優れた美術作品の鑑賞機会の拡充を図っています。

- 開催時期：令和7年6月26日(木)～6月29日(日)
- 開催場所：パルセいいざか
- 展示状況等：公募出品数565点【うち青少年（高校生以上20歳未満）137点】
招待等出品数62点、陳列作品数392点（内訳：日本画38、洋画181、彫刻23、
工芸美術38、書112）
- 受賞者78名（うち 青少年奨励賞は15名）、学校奨励賞1校
- 入場者数3,934人
- 出張展を白河市で開催

○ 第78回福島県文学賞（文化振興課）【3, 793千円】

県内在住者及び県出身の学生・生徒から文学作品を公募し、成果発表の場を提供するとともに、優秀作品を顕彰することにより本県文学の振興と地域文化の進展を図っています。

- 募集期間：令和7年7月1日～7月31日
- 部門：小説・ドラマ、エッセー・ノンフィクション、詩、短歌、俳句の5部門
- 応募状況：応募総数298点【うち青少年（12歳以上20歳未満）124点】
（内訳：小説・ドラマ51、エッセー・ノンフィクション28、詩32、短歌63、俳句124）
- 顕彰：令和7年11月3日（月・祝）に各部門の正賞、準賞等の入賞者を表彰
受賞者24名（うち 青少年奨励賞は9名）
- 県文学賞講演会：県高等学校文化連盟と共同で開催。
講師：川内有緒氏（ノンフィクション作家） 参加者：約150名
- 県文学集 入賞作品を掲載した県文学集を令和8年3月に発行

○ アートによる新生ふくしま交流事業（文化振興課）【9, 632千円】

県内の子ども達に将来「新生ふくしま」を推進する人材として活躍してもらうため、ア

ーティストを講師として学校等に派遣し、子ども達とアーティストが楽しく交流しながら創作活動を行うことで、文化芸術による心豊かな成長と創造力や感性を育む機会を提供しています。

■ アートで広げる子どもの未来プロジェクト

◆ 11プログラム、延べ37回開催、参加者数538名

○ ふくしまデジタルアート推進事業（文化振興課）【9, 646千円】

デジタルアートへの興味・関心を高める動画を制作し公開するとともに、県内の生徒・学生を対象にデジタルアート作品を発表・鑑賞する場を提供するために Web による公募展覧会を開催しています。

■ 応募作品数 227点（コンテスト部門：198点、チャレンジ部門：29点）

■ WEB展示：令和7年12月17日（水）～令和8年2月27日（金）

○ 舞台芸術等総合支援事業（文化庁）[窓口：文化振興課]

● 巡回公演事業

小学校・中学校等において一流の文化芸術団体による巡回公演を行うことにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成を図っています。

■ 令和7年度採択 30校

○ 学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業（文化庁）[窓口：文化振興課]

● 芸術家の派遣事業

個人又は少人数の芸術家を小学校・中学校等へ派遣し、講話・実技披露、実技指導を行うことにより、子供たちの創造力、思考力などの能力の育成を図っています。

■ 令和7年度採択 37校

（2）学校教育等における文化活動の促進

○ 福島県高等学校総合文化祭補助金（高校教育課）【1, 000千円】

福島県高等学校総合文化祭開催のため、福島県高等学校文化連盟とともに、福島県及び福島県教育委員会が福島県高等学校総合文化祭を実施する場合に補助金を交付しています。

■ 26部門の専門部において、第44回福島県高等学校総合文化祭を開催

○ 中学校文化部活動体制整備促進事業（義務教育課）【5, 598千円】

文化芸術等に親しむ機会を確保し創造性豊かな子どもを育成することを目的として、地域の持続可能で多様な文化芸術等に親しむ環境を整備し、地域全体で子どもたちの多様な文化芸術等の体験機会を確保するため、文化部活動の地域移行を促進し、部活動指導員配置に係る経費の一部を支援しています。

■ 地域展開については、4つのモデル地区で実施。

- 11自治体に部活動指導員28名を配置し活用した。

○ ふくしまの未来をひらく読書のカプロジェクト（社会教育課）【832千円】

福島県全体の読書活動について検討する場や中学生・高校生の情報発信能力を県内外に発信する場、幼児期の読書の大切さを広報する場を設定することにより、読書環境の改善を図っています。また、各地域で活躍できる読書活動支援者を育成するとともに、資質向上を図り、自立的・自発的に活動ができるよう支援しています。

■ 読書活動推進事業

6月と2月に推進会議を実施

■ 読書活動支援者育成事業

県内7地区で研修会を実施 受講者延べ327名

■ ビブリオバトル福島県大会

令和7年10月12日（日） 福島県立図書館 発表者14名、観戦者174名

※地区予選会 発表者77名、観戦者729名

令和8年度の主な取組

- 第80回福島県総合美術展覧会（文化振興課）【18,967千円】
- 第79回福島県文学賞（文化振興課）【4,237千円】
- アートによる新生ふくしま交流事業（文化振興課）【9,632千円】
- 子ども音楽体験支援事業（文化振興課）【2,759千円】
- 舞台芸術等総合支援事業、学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業（文化庁）
- 福島県高等学校総合文化祭補助金（高校教育課）【1,000千円】
- 中学校文化部活動体制整備促進事業（義務教育課）【15,109千円】
- ふくしまの未来をひらく読書のカプロジェクト（社会教育課）【2,155千円】

指標から見た施策の進捗状況

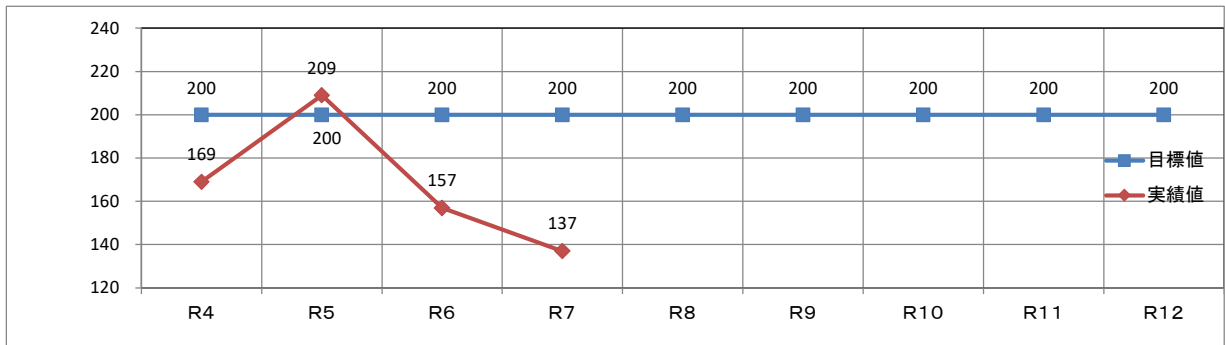
【指標の評価方法】 A:100%以上 B:99~80% C:79~70% D:69%以下

No.11 青少年の県総合美術展覧会への出品数 【目標値:200点以上(令和12年度)】

評価

D

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	200	200	200	200	200	200	200	200	200
実績値	169	209	157	137					



達成状況

・青少年出品者に対し、専門家による展示作品の講評や意見交換を行える機会を設けるなど、県展への関心を高める取組をしてきたが、青少年の活動の多様化、学校における部活動離れの影響により、目標値を下回った。

今後の取組

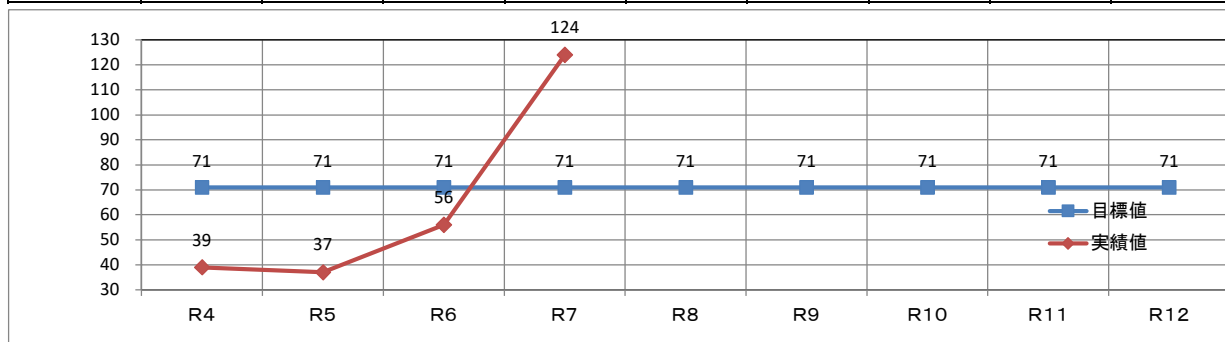
・青少年の文化への関心を高める取組を実施しており、引き続き、福島県高等学校文化連盟との連携を進めるなど、学校と連携して県展の魅力のPRを強化していく。

No.12 青少年の県文学賞への応募数 【目標値:71点以上(令和12年度)】

評価

A

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	71	71	71	71	71	71	71	71	71
実績値	39	37	56	124					



達成状況

・高校生を対象とした講演会を開催し文学への関心を高める取組を実施した結果、前年度より大幅に応募数が増加し、目標値の達成に至った。

今後の取組

・中学校、高等学校、高文連文芸専門部と連携して県文学賞の学校への周知活動を行っていく。
・若手作家の講演会開催など、青少年の文学への関心・興味が高まるような取組を進めていく。

推進施策 4 伝統文化の継承及び発展

東日本大震災、原子力災害の影響が続いている本県では、伝統文化が地域の絆を支えてきた経験をいかしながら、文化財を含めた伝統文化を次世代に継承し、地域におけるまちづくりや観光などの資源として積極的に活用し発展させます。

(1) 伝統文化の継承と発展

(2) 文化財の保存と活用

令和 7 年度の主な取組実績

(1) 伝統文化の継承と発展

○ 「地域のたから」民俗芸能総合支援事業（文化振興課）【17,839千円】

● 民俗芸能公演事業

民俗芸能団体に公演の機会を提供するとともに、各団体の実情に応じた支援を行うことにより、民俗芸能の継承を図り、地域住民の絆の維持やふるさとへの誇りの醸成につなげています。

■ より多くの民俗芸能団体に芸能披露の機会を提供するため、他機関が主催するイベントに出張公演という形で積極的に参加するとともに、来場できない方にも芸能を鑑賞いただけるように動画を撮影し、県公式 YouTube で公開した。

【本体公演】

- ・日時：令和 7 年 10 月 25 日（土）、26 日（日）
- ・場所：道の駅なみえ
- ・出演：25 日 8 団体、26 日 10 団体、計 18 団体
- ・来場者数：約 500 名

【出張公演】

① 楽しいオーケストラ in 福島

- ・日時：令和 7 年 8 月 11 日（月）
- ・場所：いわき芸術文化交流館アリオス
- ・出演：1 団体
- ・来場者数：約 600 名

② ふたばワールド 2025 in かわうち

- ・日時：令和 7 年 10 月 11 日（土）
- ・場所：田ノ入工業団地
- ・出演：1 団体
- ・来場者数：約 3,000 名

③ デフリンピックサテライト開会式

- ・日時：令和 7 年 11 月 15 日（土）
- ・場所：J ヴィレッジ
- ・出演：1 団体
- ・来場者数：約 600 名

● 民俗芸能復興サポート事業

専門家との連携により、芸能団体の活動再開から継続、担い手の育成まで、各団体の実情に応じた総合的、一体的な支援を行っています。

■ 個別訪問 52団体

芸能団体を専門家が訪問し、個別具体的な助言指導を実施。

■ 学校との連携活動 3校

県内の小学校において、子ども向けのテキストを活用して民俗芸能の説明をするなど、子どもたちに民俗芸能を身近に感じてもらう取組を実施。

○ 大学生と集落の協働による地域活性化事業（地域振興課）【8, 017千円】

過疎・中山間地域の集落の活性化を図るため、柔軟な視点や感性、行動力を持つ大学生等の力を活用し、県内外の大学生グループと集落との交流を通じた集落活性化の取組の実現・継続を支援します。また、地域活動の担い手不足の解消に向け、地域活動に関心の高い大学生等との橋渡しを行うことで、地域と多様かつ継続的に関わりを持つ関係人口の創出・拡大を図っています。

- 当該事業を活用し、県外の大学生グループが浪江町の民俗芸能保存会と協働して、イベントにおける民俗芸能の披露や民俗芸能の継承等に取り組んだ。

○ 進化する伝統産業創生事業（県産品振興戦略課）【29, 948千円】

伝統産業の後継者不足や消費者のライフスタイル・価値観の変化による需要減少等の課題解決に向け、後継者確保、人材育成を目的としたアカデミーやインターンシップを実施しました。

● ふくしまクリエイティブクラフトアカデミーの実施

- 職人等のスキルアップを図ることを目的とした「ふくしまクリエイティブクラフトアカデミー」の開講
- 受講生20名（うち18名が修了）

● 福島県クリエイター育成インターンシップの実施

- 後継者育成や、産地・工芸の理解促進を図ることを目的としたインターンシップの受入実施。
- 受入事業者2社。参加者13名のうち1名が地域おこし協力隊として就職。

○ 伝統文化親子教室事業（文化庁）[窓口：文化振興課]

子どもたちに対して、民俗芸能、邦楽、日本舞踊、茶道、華道などの伝統文化に関する活動を体験・習得できる機会を提供しています。

- 令和7年度採択 17教室

（２）文化財の保存と活用

○ 指定文化財保存活用事業（文化財課）【３７，３９２千円】

文化財の保存と活用を一体的に図るため、文化財の修復等保存事業と公開等活用事業を実施する場合に、補助金を交付しています。

- １７件の文化財に対し３７，１４０千円の補助金を交付し、文化財の保存及び活用を図った。

○ 文化財保存活用地域計画策定支援（文化財課）【２０３千円】

文化財保存活用地域計画の策定を進める市町村に全国的な先行事例の紹介や災害発生時の文化財救援活動の手順、文化財の防災・減災のための調査の実施方法、文化財浸水ハザードマップの作成方法などについて、指導助言・支援を行っています。

○ 福島県文化財センター白河館の管理運営（文化財課）【３０２，２９９千円】

文化財等の保管・活用により、県民の文化の振興に資するため設置した福島県文化財センター白河館の維持管理を行うとともに、国民の財産である文化財の保存・公開・活用を通して文化財保護思想の普及啓発を図るための事業を展開しています。（施設の維持・管理運営事業）

○ 地域文化財総合活用推進事業（地域伝統行事・民俗芸能等）（文化庁）

[窓口：文化財課]

用具の修理・継承者養成など、地域の伝統行事・民俗芸能等の基盤整備の取組に国（文化庁）が支援し、次代への継承や地域活性化を推進しています。

- 令和７年度採択 ４件 （文化庁補助額合計：１３，１５０千円）

令和８年度の主な取組

- 「地域のたから」民俗芸能総合支援事業（文化振興課）【20,225 千円】
- 大学生と集落の協働による地域活性化事業（地域振興課）【9,069 千円】
- 進化する伝統産業創生事業（県産品振興戦略課）【45,776 千円】
- 伝統文化親子教室事業（文化庁）
- 文化財保存助成事業（文化財課）【41,090 千円】
- 文化財保存活用地域計画策定支援（文化財課）【237 千円】
- 福島県文化財センター白河館の管理運営（文化財課）【320,199 千円】
- 地域文化財総合活用推進事業（地域伝統行事・民俗芸能等）（文化庁）

指標から見た施策の進捗状況

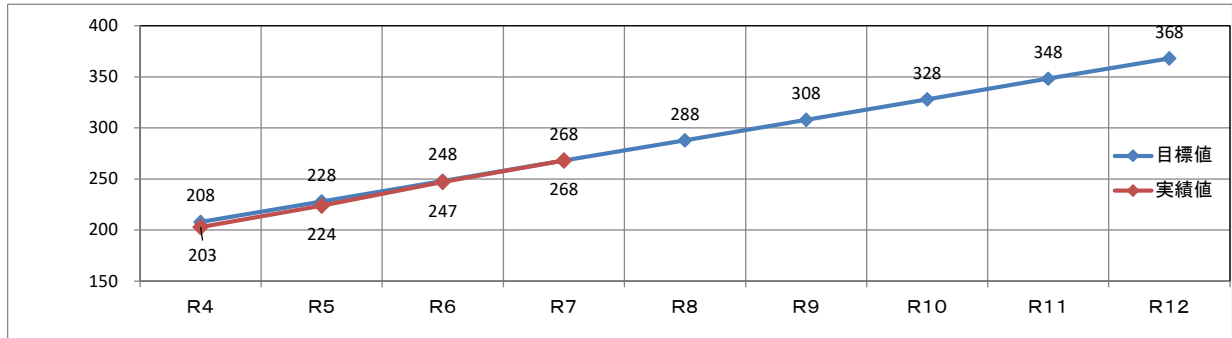
【指標の評価方法】 A: 100%以上 B: 99~80% C: 79~70% D: 69%以下

No.13 ふるさとの祭り参加民俗芸能団体数 【目標値: 累計368団体(令和12年度)】

評価

A

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	208	228	248	268	288	308	328	348	368
実績値	203	224	247	268					



達成状況	・「ふるさとの祭り」には本体公演と出張公演があり、今年度は本体公演に18団体、出張公演に3団体、合計21団体が参加し、多くの観客の前で民俗芸能を披露いただいた。これにより、今年度までの累計参加団体数は268団体となり、目標を達成した。
今後の取組	・引き続き、県内各地で開催される各種イベントにおいて、民俗芸能をより多くの県民に知ってもらう機会、芸能を披露する機会を確保する観点から、「ふくしまの祭り」として参加できるよう調整を進めていく。 ・担い手の確保のため、地域の移住者、定住者や県内の学生などが、民俗芸能団体との連携や活動の協力をしていく関係づくりに取り組んでいく。

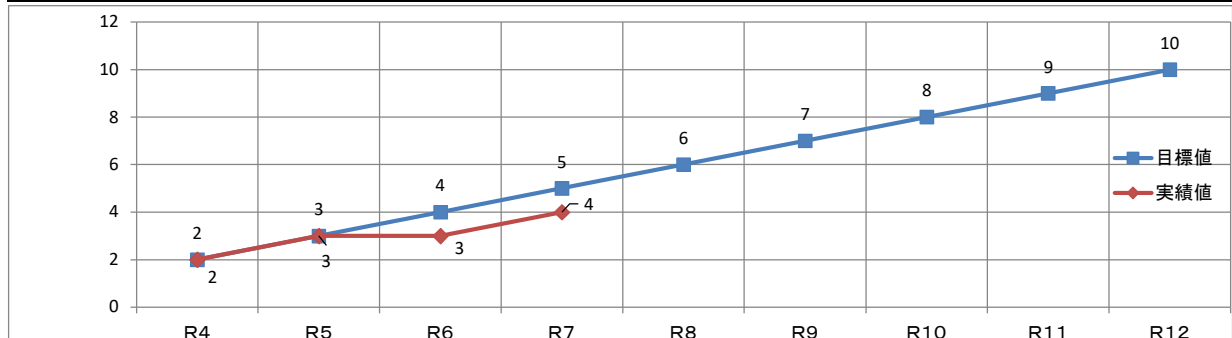
No.14 市町村における文化財保存活用地域計画を作成した市町村数 【目標値: 10市町村(令和12年度)】

評価

B

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	2	3	4	5	6	7	8	9	10
実績値	2	3	3	4					



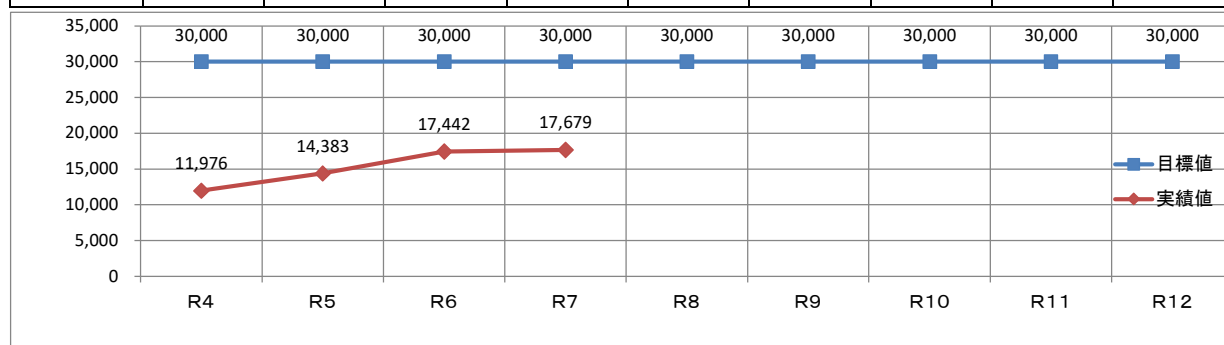
達成状況	・文化財保存活用地域計画は、既に白河市、会津若松市、喜多方市の3市が文化庁長官の認定を受けており、令和7年度は新たに大熊町が認定を受けた。同町地域計画は、東日本大震災及び東京電力第一原子力発電所事故で被災した地域では初の策定であり、被災地域での文化財保護の現状とあり方を考えるうえで、先駆的な計画となった。 ・令和8年度は福島市、三春町、棚倉町、石川町が認定申請を予定、4市町が作成中である。このほか、会津若松市は第二期の地域計画を作成予定である。
今後の取組	・作成中の市町村には、オブザーバーとして積極的に協議会に参加し助言をする。また、市町村支援プログラムの中で、要望に応じて支援するとともに、文化庁の補助事業や研修会等の情報も提供しながら、市町村に同計画の作成を促していく。 ・作成検討中の市町村には、策定した市町村を紹介したり文化庁との協議を設定するなどして、不安を解消する手助けをする。

(再掲)№.8 県文化財センター白河館の入館者数
【目標値:30,000人(令和12年度)】

評価
D

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000
実績値	11,976	14,383	17,442	17,679					



達成状況	・白河館の入館者数は、新型コロナウイルスが蔓延した令和2年度には前年度比△12,430人の11,249人であった。令和5年度以降は増加傾向に転じているものの、未だコロナ禍前の水準には戻っていない。入館者数に占める学校等団体利用の割合は、令和元年度で29%であったが、令和7年度には13%となっており、団体利用の減少が続いている。 ・バス代補助の減少、教育カリキュラムの変更等により団体利用の増加が難しい中、「U-15の考古学 発掘調査で何がわかる？」展、「ふくしまの縄文・弥生時代—只見川流域の遺跡—」展等の魅力的な企画の実施により、令和7年度の入館者数は17,679人と前年度比で微増とすることができた。
今後の取組	・指定管理者と連携し、県文化財センター白河館の強みを生かした魅力ある展示の企画、館長講演会など広域かつ幅広い年齢層の文化財への理解の増進に努めるとともに、ファミリー層に訴求するイベント開催、重点的な広報により入館者数の増を目指す。 ・指定管理者である福島県文化振興財団には、企画力及び広報力向上のために文化庁主催のセミナーや研修を受けるよう促すとともに、常設展示室の一部を企画展と連動して活用するなどの助言を進めていく。

推進施策5 生活文化の充実

ふくしまの生活環境の中から育まれた食文化などの生活文化の継承と振興を図ります。

- (1) 食文化の継承と振興
- (2) 生活文化等の振興

令和7年度の主な取組実績

(1) 食文化の継承と振興

○ ふくしま‘食の基本’推進事業（農産物流通課）【9,402千円】

東日本大震災と原発事故の影響により、県内の子どもが地域の食に関する体験や知識を得る機会が減少しているため、食に関する体験活動を推進するとともに、地域における食育推進活動を支援しています。

- 食育実践サポーターとして、245名登録、子どもの食育に係る授業や研修会等へのべ113人派遣した。
- ふるさとの農林漁業体験支援事業として、11事業の食育に関する体験を支援した。

○ 元気なふくしまっ子食環境整備事業（健康教育課）【2,043千円】

食習慣、肥満等の健康課題に対応するため、栄養教諭を始めとした食育指導者の資質向上を図り、園児・児童生徒等の食生活の環境整備を行うとともに、食育の観点から地場産物活用促進のため、地場産物を活用した料理コンテストを開催し、入賞したレシピを県民に発信しています。

- 「ふくしまっ子ごはんコンテスト」（対象：小・中学生）を開催し、16,983件の応募があった。
- 栄養教室食育研修会（5月）、食環境を考える会（7月、8月）の実施により、食育関係者に本県事業の理解が深まった。

(2) 生活文化等の振興

○ 福島県建築文化賞（建築住宅課）【1,503千円】

地域の周辺環境に調和し、景観上優れた建築物等を表彰し、文化的な魅力のあるまちづくりに対する意識の高揚を図っています。

- 応募作品39点に対し、一次審査（8月）、現地審査（10月）、最終審査（11月）を経て、11点の受賞作品を決定し、表彰式（2月）を実施した。

○ 森林とのきずな事業（森林計画課）【14,238千円】

県民に向けた的確な森林情報の発信、大学生等の森林に関する自己学習活動を支援しています。

- 大学生等の森林に関する自己学習活動の支援 4グループ

令和 8 年度の主な取組

- ふくしま ‘食の基本’ 推進事業（農産物流通課）【13, 267 千円】
- 元気なふくしまっ子食環境整備事業（健康教育課）【3, 350 千円】
- 福島県建築文化賞（建築住宅課）【1, 453 千円】
- 森林環境学習支援事業（森林計画課）【13, 161 千円】

指標から見た施策の進捗状況

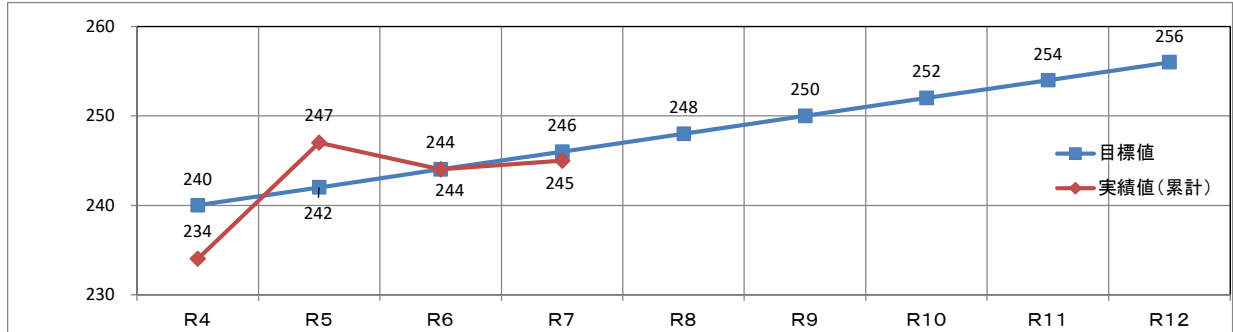
【指標の評価方法】 A:100%以上 B:99~80% C:79~70% D:69%以下

No.15 食育実践サポーター派遣事業実績(登録者数) 【目標値:256人(令和12年度)】

評価

B

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	240	242	244	246	248	250	252	254	256
実績値(累計)	234	247	244	245					



達成状況

・登録人数は目標を達成するには至らなかったものの、サポーターの登録・派遣人数ともに、同水準で推移している。昨今の物価高騰・食品の値上げなども理由の一つとし、地産地消や食育に対する関心は引き続き高い状態が続いているものと考えられる。

今後の取組

・学校や地域団体等の食育に関心がある団体に対して、本事業の周知・広報を強化していくとともに、サポーターが活動できる場を増やすため、サポーターの得意分野を活かしたマッチングに努める。

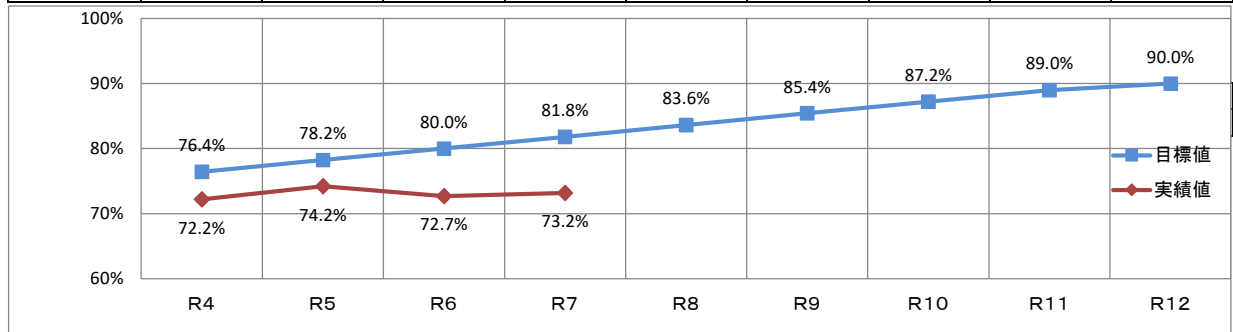
No.16 地元産の食材を、積極的に使用していると回答した県民の割合 【目標値:90.0%以上(令和12年度)】

評価

B

※県総合計画指標(県政世論調査による意識調査項目)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	76.4%	78.2%	80.0%	81.8%	83.6%	85.4%	87.2%	89.0%	90.0%
実績値	72.2%	74.2%	72.7%	73.2%					



達成状況

・地場産品や郷土料理など地域の食文化の理解を深める食育活動の場が増え、地域の食文化への理解・関心は高まってきているが、実績値は前年度とほぼ横ばいであった。

今後の取組

・幼少期から、地域の食文化に触れ親しむ機会づくりを中長期的に実施していく必要があり、学校や企業、関係団体等による食育の推進や地域で受け継がれてきた食文化を認定する100年フード周知などに継続して取り組み、食文化や地場産品への理解を深め、地産地消の拡大につなげていく。

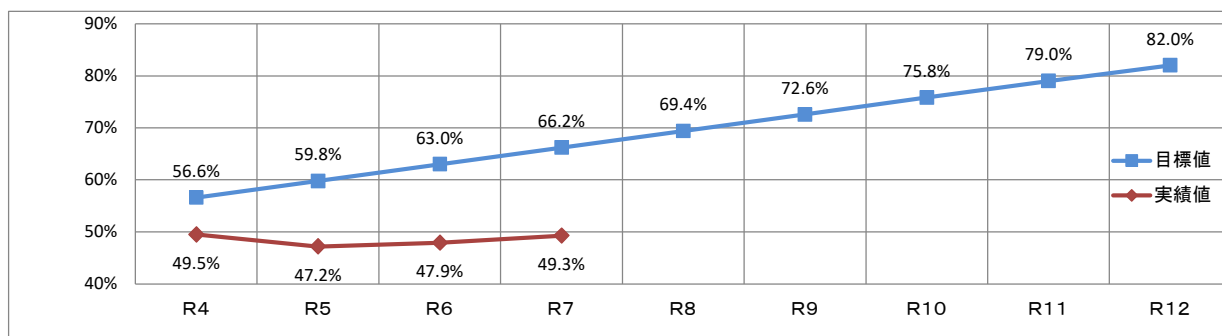
No.17 本県の豊かな自然や美しい景観が保全され、野生鳥獣との共生が図られていると回答した県民の割合【目標値:82.0%以上(令和12年度)】

評価

C

※県総合計画指標(県政世論調査による意識調査項目)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	56.6%	59.8%	63.0%	66.2%	69.4%	72.6%	75.8%	79.0%	82.0%
実績値	49.5%	47.2%	47.9%	49.3%					



達成状況	・豊かな自然や美しい景観を文化的な自然として活用し、野生鳥獣との共生を図ることで、県民がその価値を再認識して保全の推進にも繋げるよう取組を進めており、前年度より数値が上昇したものの、浜通り地方で低くなっている。太陽光パネル設置に関する景観問題や近年のツキノワグマ等の野生鳥獣による被害等の影響も一因として考えられる。目標達成のためには更なる取組の強化が必要である。
今後の取組	・地域の文化財や歴史的な建造物、街並み、美しい景観などを、文化的価値のある資源として活用していくため、観光や産業との連携を促進していく。

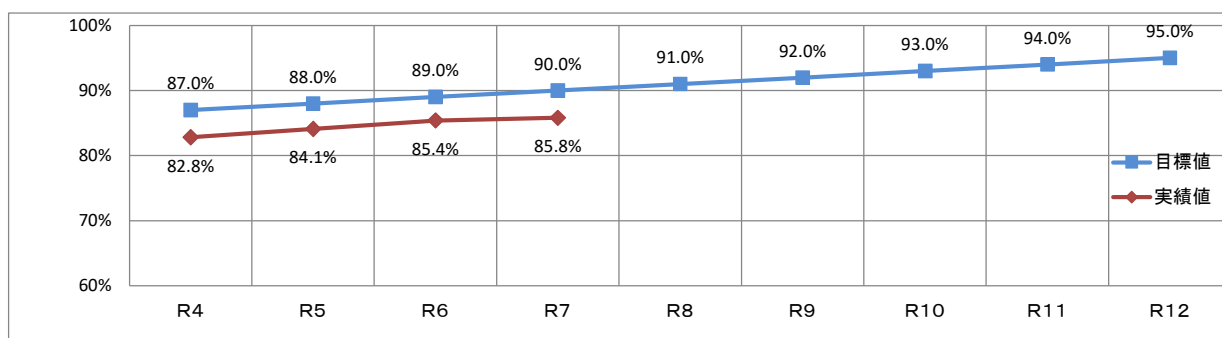
No.18 自然と伝統が残る農山漁村地域を大切にしたいと回答した県民の割合【目標値:95.0%以上(令和12年度)】

評価

B

※県総合計画指標(県政世論調査による意識調査項目)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	87.0%	88.0%	89.0%	90.0%	91.0%	92.0%	93.0%	94.0%	95.0%
実績値	82.8%	84.1%	85.4%	85.8%					



達成状況	・8割以上の県民が自然と伝統が残る農山漁村地域を大切にしたいと回答しており、伝統を継承してく重要性は多くの県民に認識されており、概ね目標を達成した。
今後の取組	・より多くの県民に伝統文化の重要性を再認識してもらうため、地域に伝わる民俗芸能の継承や再開の支援、発表の機会の確保に引き続き努めていく。 ・文化財を含めた伝統文化を地域のたからとして継承しつづけていくために、文化財保存活用地域計画の作成支援や、観光など地域で様々な形で活用し、その価値や役割を高めていく。

推進施策 6 文化活動を行う拠点の機能の充実

文化活動の拠点である各文化施設等について、県民の多様なニーズに対応するため、整備や機能の充実を図るとともに、県民の利用促進のために文化施設相互の連携促進など運営の充実を図ります。また、地域と連携し、地域文化についての理解を深める文化観光の推進における中核としての機能も充実させていきます。

(1) 文化施設の機能の充実・連携の促進

令和7年度の主な取組実績

(1) 文化施設の機能の充実・連携の促進

○ 福島県文化センターの管理運営（文化振興課）【1,647,577千円】

県民の芸術及び文化の振興を図るために設置した福島県文化センターの維持管理、芸術の振興に資する事業を支援しています。（大ホール客席天井復旧・改修工事、空調設備改修工事、屋内消火栓工事、客席誘導灯工事等を実施）

○ 美術館施設整備事業（施設財産室）【80,815千円】

県立美術館の修繕等を計画的に行っています。

○ 博物館施設整備事業（施設財産室）【13,046千円】

県立博物館の修繕等を計画的に行っています。

○ 東日本大震災・原子力災害伝承館管理運営事業（生涯学習課）【425,024千円】

東日本大震災・原子力発電所事故による甚大な複合災害に見舞われた福島県の記録、教訓及び復興のあゆみを着実に進める過程を収集、保存、研究し、風化させることなく後世に引き継ぎ、国内外と共有し、復興の加速化に寄与するため東日本大震災・原子力災害伝承館を設置、運営しています。

■ 資料収集・展示

◆ 981点の資料を収集

◆ 企画展示 2回実施、他県での巡回展示 10回実施

■ 調査研究

◆ 令和7年12月に活動報告会開催

◆ 令和8年3月に第4回東日本大震災及・原子力災害学術研究集会を開催

■ 学習機会の提供

◆ 297団体12,640名が一般研修プログラムを受講し、10団体192名が館長及び上級研究員による専門講座を受講

○ **ふくしま海洋科学館（アクアマリンふくしま）の管理運営（生涯学習課）【558,836千円】**

海に関する文化・科学の学習機会を提供するための拠点施設として設置したふくしま海洋科学館（アクアマリンふくしま）の維持管理、展示資料等の更新を行っています。

- 「わくわく・はじまりの森」「アクアマリンえっぐ」をリニューアルオープンするなど、誘客拡大となる取組を実施。

○ **文化観光拠点施設機能強化事業（社会教育課）【6,183千円】**

「福島県立博物館を活用した会津文化観光拠点計画」を策定し、県立博物館を文化観光の拠点施設として、若松城跡周辺の「会津の SAMURAI 文化エリア」や「若松城下の商工文化エリア」、奥会津の「雪国のくらしとものづくり文化エリア」を訪れる観光客等の周遊を促進する取組を行っています。

- 三の丸から展・テーマ展「勢津子さまのお雛様」開催、常設展示の多言語化、多言語コンテンツ配信システムの運用、雪国ものづくりマルシェ（春、秋）、文化観光事業のプロモーション等を実施。

令和8年度の主な取組

- 福島県文化センターの管理運営（文化振興課）【949,955千円】
- 美術館施設整備事業（施設財産室）【8,928千円】
- 博物館施設整備事業（施設財産室）【3,669千円】
- 東日本大震災・原子力災害伝承館管理運営事業（生涯学習課）【422,937千円】
- ふくしま海洋科学館（アクアマリンふくしま）の管理運営（生涯学習課）【558,856千円】
- 文化観光拠点施設機能強化事業（社会教育課）【11,216千円】

指標から見た施策の進捗状況

【指標の評価方法】 A: 100%以上 B: 99~80% C: 79~70% D: 69%以下

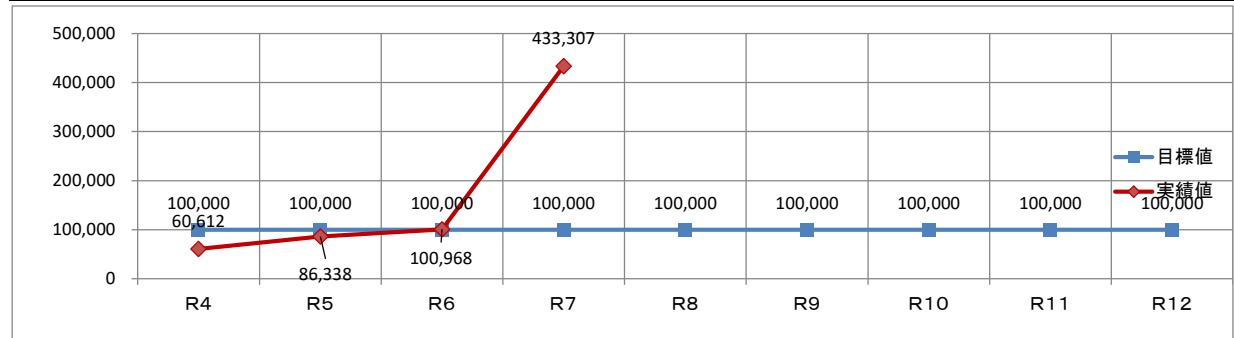
(再掲)No.4 県立美術館の入館者数 【目標値: 100,000人(令和12年度)】

評価

A

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
実績値	60,612	86,338	100,968	433,307					



達成状況	・令和7年度は、実行委員会形式による大型展「金曜ロードショーとジブリ」展及び「大ゴッホ展」を開催し、「金曜ロードショーとジブリ」展では約21万人、「大ゴッホ展」では令和7年度末時点で約12万人の来場者を記録した。そのほかにも新版画展や竹久夢二展といった、幅広いジャンルの魅力ある企画展や関連イベントの開催等により、入館者数が433,307人となり、10万人という目標をはるかに超えた。 ・広報のあり方も、幅広い世代に即時効果的に発信するため、SNS等を活用した情報発信を行っている。
今後の取組	・県民等のニーズに即した大型企画展や自主企画展をバランスよく開催する。 ・様々な手段で企画展の内容があらゆる年齢層に伝わるように広報する。 ・団体の入館者数は上昇傾向にあるが、さらに増となる取り組みが必要である。 ・継続的に来館者の多様なニーズに対応できる様々な種類の講座の開催が必要である。

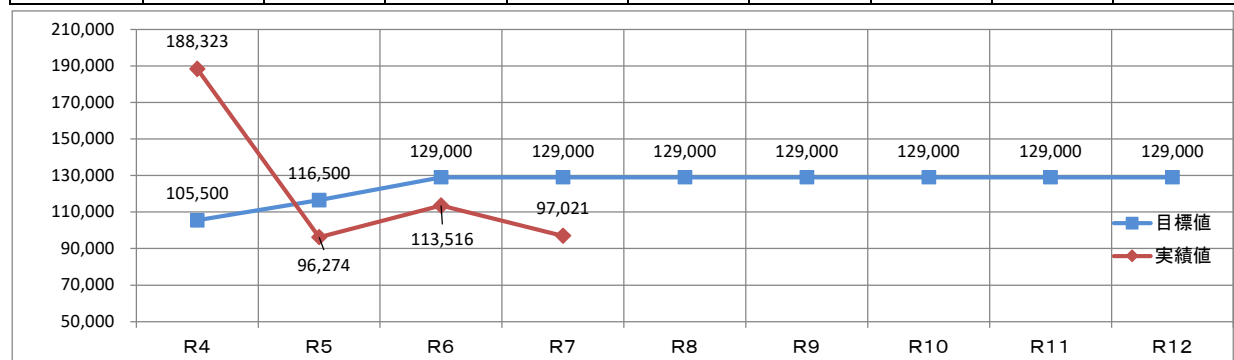
(再掲)No.5 県立博物館の入館者数 【目標値: 129,000人(令和12年度)】

評価

C

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	105,500	116,500	129,000	129,000	129,000	129,000	129,000	129,000	129,000
実績値	188,323	96,274	113,516	97,021					



達成状況	・令和6年度は施設改修等(トイレ改修及び排煙設備修繕)による閉館期間があったが、令和7年度は通年開館したことにより、館内事業利用者数は前年度比1.2倍となった。 ・一方、令和7年度は前年度に比べ、館外事業(特に館外アウトリーチ事業)を小規模にとどめたため、館外事業利用者数が前年度比30,000人弱の減となった。
今後の取組	・令和8年度は実行委員会主催の大型企画展を開催することとしており、広報の強化など着実な入館者増に取り組む。 ・引き続き、展示室のサイン表示・解説等の多言語化等、来館者の利便性向上と、インバウンド、外国語ユーザー増にもつなげていく。 ・令和7年度は小規模にとどめた博物館事業(アウトリーチ事業等)についても強化し、令和6年度並みの実施を目指していく。

(再掲)No.6 東日本大震災・原子力災害伝承館の入館者数
【目標値:101,000人(令和12年度)】

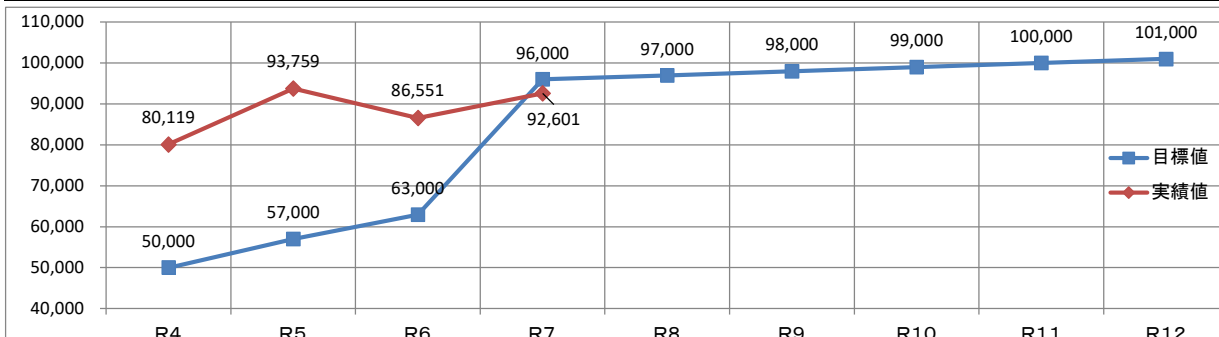
評価

B

※県総合計画指標

令和7年度～ 指標目標値見直し

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	50,000	57,000	63,000	96,000	97,000	98,000	99,000	100,000	101,000
実績値	80,119	93,759	86,551	92,601					



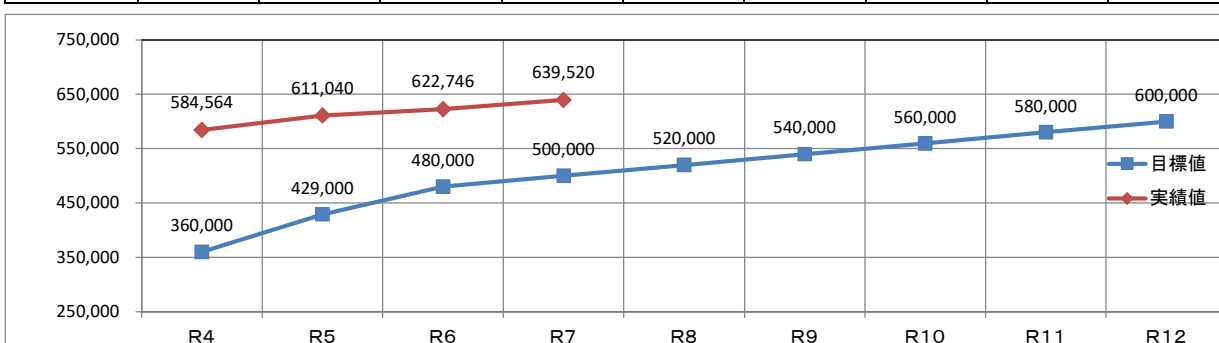
達成状況	- 令和7年度、入館者数の目標値を見直した。 - 令和7年度の入館者数としては、92,601人(前年度比106.9%)となり、開館以来2番目の多さとなった。 - 令和7年7月30日のカムチャツカ半島沖地震に伴う津波注意報と津波警報の発令や、12月9日の初の「北海道・三陸沖後発地震注意情報」の発令、令和8年3月11日に震災と東京電力福島第一原子力発電所事故から15年となったことなど、自然災害や東日本大震災への注目が高まったことが原因と考えられ、特に個人の来館者が増えた。
今後の取組	- 県が推進するホープツーリズムの中核施設であり、「学びの施設」としての伝承館の質・魅力を向上させていくため、分かりやすい展示内容の更新、語り部の研修、魅力的な企画展やロビー展の開催に加え、研究事業とタイアップした研修プログラムの充実を図る。 - イベントに併せたニュースリリースに加え、ホームページの充実やインターネット広告などにより、周知を図る。 「事前学習プログラム」も活用しながら、教育旅行の誘客活動を進めていく。

(再掲)No.7 アクアマリンふくしまの入館者数
【目標値:600,000人(令和12年度)】

評価

A

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	360,000	429,000	480,000	500,000	520,000	540,000	560,000	580,000	600,000
実績値	584,564	611,040	622,746	639,520					



達成状況	令和7年度の入館者数は、魅力的な企画展の開催、積極的な情報発信等により伸び、目標を達成した。
今後の取組	3月にリニューアルオープンした「アクアマリンえっぐ」などにより誘客を進めるほか、引き続き施設の魅力を向上させていく。 - 魅力ある企画開催事業を展開し、近隣施設と連携した情報発信を行っていく。 - 博物館法上の博物館として、学術的取組を始め、地域の観光・交流拠点としての役割を果たしていく。

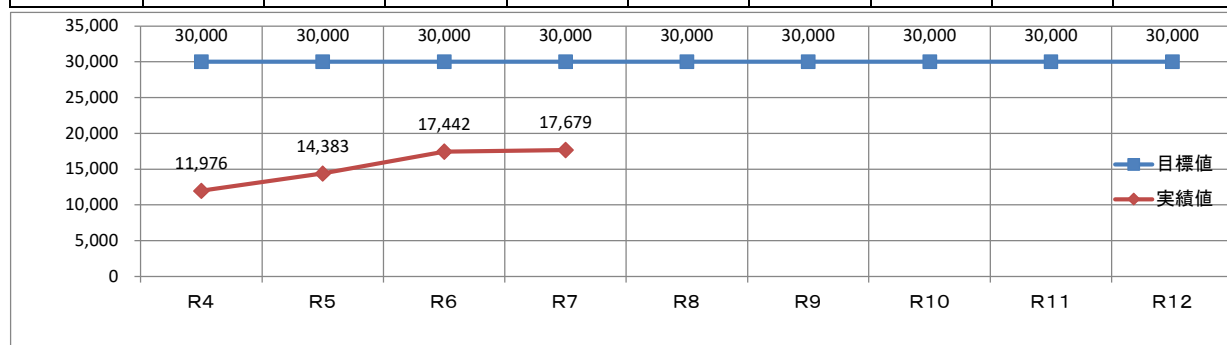
(再掲)No.8 県文化財センター白河館の入館者数
【目標値:30,000人(令和12年度)】

評価

D

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000
実績値	11,976	14,383	17,442	17,679					



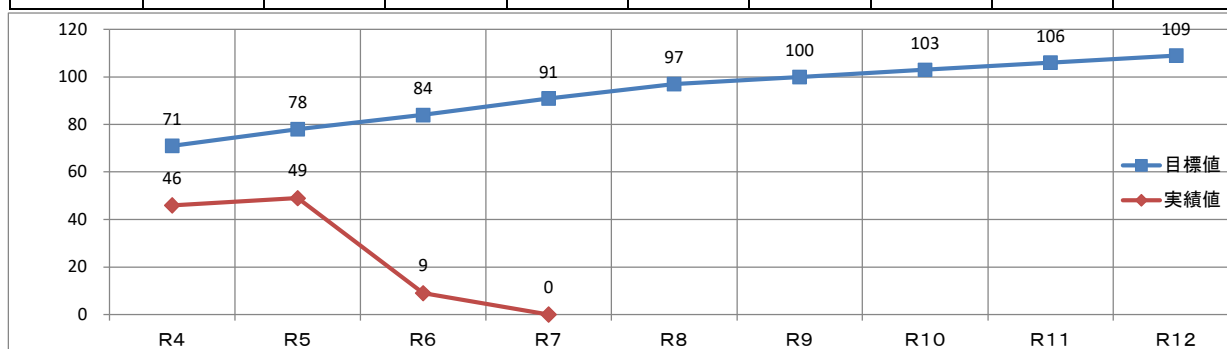
達成状況	・白河館の入館者数は、新型コロナウイルスが蔓延した令和2年度には前年度比△12,430人の11,249人であった。令和5年度以降は増加傾向に転じているものの、未だコロナ禍前の水準には戻っていない。入館者数に占める学校等団体利用の割合は、令和元年度で29%であったが、令和7年度には13%となっており、団体利用の減少が続いている。 ・バス代補助の減少、教育カリキュラムの変更等により団体利用の増加が難しい中、「U-15の考古学 発掘調査で何がわかる？」展、「ふくしまの縄文・弥生時代—只見川流域の遺跡—」展等の魅力的な企画の実施により、令和7年度の入館者数は17,679人と前年度比で微増とすることができた。
今後の取組	・指定管理者と連携し、県文化財センター白河館の強みを生かした魅力ある展示の企画、館長講演会など広域かつ幅広い年齢層の文化財への理解の増進に努めるとともに、ファミリー層に訴求するイベント開催、重点的な広報により入館者数の増を目指す。 ・指定管理者である福島県文化振興財団には、企画力及び広報力向上のために文化庁主催のセミナーや研修を受けるよう促すとともに、常設展示室の一部を企画展と連動して活用するなどの助言を進めていく。

(再掲)No.9 福島県文化センター利用料金免除件数
【目標値:109件(令和12年度)】

評価

—

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	71	78	84	91	97	100	103	106	109
実績値	46	49	9	0					



達成状況	・大規模な改修工事を実施するため令和7年度は年間を通じて休館しており、実績は0件となっている。
今後の取組	・引き続き、改修工事を着実に実施する。 (令和8年9月1日に文化会館の再開を予定している。)

推進施策7 文化の交流の推進

地域やジャンルを超えた多様な文化交流を推進するとともに、東日本大震災・原子力災害の記録や教訓等を次世代に引き継ぎながら、復興の状況とともに全国に向けて発信し、交流の拡大につなげます。

- (1) 文化の発信と交流の充実
- (2) 東日本大震災・原子力災害からの復興と教訓の発信

令和7年度の主な取組実績

(1) 文化の発信と交流の充実

○ 第19回声楽アンサンブルコンテスト全国大会（文化振興課）【19, 198千円】

全国トップレベルの声楽アンサンブルグループによるコンテストを開催し、音楽文化の更なる発展を図るとともに、歌うことの楽しさや「合唱王国ふくしま」を全国に発信します。

- 開催日：令和8年3月19日（木）～3月22日（日）
- 開催場所：ふくしん夢の音楽堂（福島市音楽堂）
- 19日～21日に部門別コンテスト（小学生・ジュニア、中学生、高等学校、一般の4部門）を行い、21日に本選を行った。
- 出場団体数：132団体、出場者数：1,905名、入場者数：4,857名

○ 教育旅行復興事業（観光交流課）【304, 417千円】

県内宿泊を伴う教育旅行を実施する県外学校に対するバス経費の一部助成を行っています。また、ホープツーリズムを核とした探究学習プログラムの磨き上げ・周知のための教育関係者向けモニターツアー、合宿関係施設の広域連携促進による受入体制の強化等を行うとともに、継続的な情報発信・営業活動を実施します。

- バス経費助成事業交付件数 1,549件
- モニターツアー 66回実施

○ 東京2025デフリンピック関連復興推進事業（スポーツ課）【82, 617千円】

2025年にJヴィレッジでサッカー競技が開催される「東京2025デフリンピック」を契機に、デフスポーツの体験機会の創出やろう者の文化への理解促進を進めるとともに、大会開催に向けた機運醸成等の一連の取組を通じて、共生社会の実現と本県の復興の加速化を図っています。

- 開催100日前カウントダウンフェスタ「デフスポふくしま」 令和7年8月9日（土）
- 東京2025デフリンピックサッカー競技開幕直前イベント 令和7年11月8日（土）
- デフリンピック開催期間中の取組
 - ◆ オープニングセレモニー 令和7年11月14日（金）
 - ◆ サテライト開会式 令和7年11月15日（土）

- ◆ 子ども観戦招待 32校 2,080名参加
- ◆ エスコートキッズに71名参加、副賞ベアラーに4名参加

(2) 東日本大震災・原子力災害からの復興と教訓の発信

○ [再掲] 東日本大震災・原子力災害伝承館管理運営事業（生涯学習課）【425,024千円】

東日本大震災・原子力発電所事故による甚大な複合災害に見舞われた福島県の記録、教訓及び復興のあゆみを着実に進める過程を収集、保存、研究し、風化させることなく後世に引き継ぎ、国内外と共有し、復興の加速化に寄与するため東日本大震災・原子力災害伝承館を設置、運営しています。

○ 東日本大震災・原子力災害伝承館学習活動支援事業（生涯学習課）【29,347千円】

県内外の小中高の児童・生徒が東日本大震災・原子力災害伝承館を活用して行う学習活動に対し支援を行っています。

- バス補助：延べ68校、バス158台、人数5,214人（児童生徒及び引率者）
- 入館料補助：19,321人

○ 震災・原発の経験・教訓、復興状況伝承事業（生涯学習課）【7,715千円】

福島県の子どもたちが、県内で復興・再生に邁進している団体等に対して取材を行い、震災の経験や教訓、復興に向けての取組を学び、ふるさとの良さや未来について考え、自分の言葉で新聞にまとめ、発信することにより、ふるさとへの愛着心を育むとともに、ふくしまの復興を広く国内外に発信します。

■ ジャーナリストスクールの開催

開催日：令和7年8月7日（木）開校式・取材、8月10日（日）～11日（月・祝）

新聞作成、8月16日（土）発表会・閉校式

◆ 場所：東日本大震災・原子力災害伝承館、相双地区他

郡山市青少年会館、郡山市市民交流プラザ

◆ 受講生 県内の小学5年生～高校生 39名

◆ 発表会参観者 117名、特別講師 池上彰氏

○ 次世代へつなぐ震災伝承事業（生涯学習課）【22,436千円】

次世代への震災の記憶と教訓の伝承を図るため、語り部団体等のネットワーク化や人材育成、県外等への語り部派遣を行うことで、語り部等の持続的な活動の仕組みづくりに取り組み、次世代への震災の記憶と教訓の伝承につなげていきます。

■ ネットワーク化・レベルアップ

◆ 東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議 2回（5月、2月）

◆ ふくしま震災伝承者交流会を12月に富岡町で開催し、50人が参加

■ 人材育成

- ◆ 伝承者育成検討プロジェクトチーム会議 2回（7月、1月）
- ◆ 伝承者育成講座・中国語講座 4回（修了者 日本語9人、中国語1人）
- ◆ 伝承者英語講座 5回（修了者4人）
- ◆ 3. 11被災地視察研修 10月に東松島市で実施（参加者18人）
- 県外への語り部派遣
 - ◆ 59件派遣、聴講者数5,136人

○ 震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業（高校教育課）【7,052千円】

震災と復興に関する地域課題探究活動を通して、福島における震災、復興、未来について、自分の考えを持ち、自分の言葉で語ることでできる高校生を育成に取り組んでいます。この過程で思考力、判断力、表現力等を育成するとともに、県内外の高校生等との交流を通して震災に関わる風化防止、風評払拭につなげています。

- 実践校13校及び伝承館研修校21校を指定。各校とも計画に基づき実践。
- 小中高の若手教員を対象に東日本大震災・原子力災害伝承館等において研修を実施。

○ ホープツーリズム運営・基盤整備事業（観光交流課）【214,640千円】

ホープツーリズムの関連コンテンツ、モデルコース等の最新情報を整理・集積した総合窓口及びサポートセンターの運営・情報発信を行うとともに、ホープツーリズムのさらなる深化・拡大に向け、一般観光客向けの情報発信を行っています。また、インバウンドの入込も増加していることから、多言語ガイドの育成を行うなど、海外における風評対策に繋げています。

- ホープツーリズム 486件実施、19,588人が参加。総合窓口やサポートセンターの運営及びフィールドパートナーの育成研修。
- 公式アンバサダーによるプロモーション活動や各種モニターツアーの実施。

令和8年度の主な取組

- 第20回声楽アンサンブルコンテスト全国大会（文化振興課）【19,358千円】
- 教育旅行復興事業（観光交流課）【341,234千円】
- オリンピック・パラリンピック・デフリンピックレガシー事業（スポーツ課）
【10,604千円】
- 東日本大震災・原子力災害伝承館管理運営事業（生涯学習課）【422,937千円】
- 震災・原発の経験・教訓、復興状況伝承事業（生涯学習課）【7,717千円】
- [再掲] 東日本大震災・原子力災害伝承館学習活動支援事業（生涯学習課）【27,841千円】
- 次世代へつなぐ震災伝承事業（生涯学習課）【29,209千円】
- 震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業（高校教育課）【11,003千円】
- ホープツーリズム運営・基盤整備事業（観光交流課）【216,659千円】

指標から見た施策の進捗状況

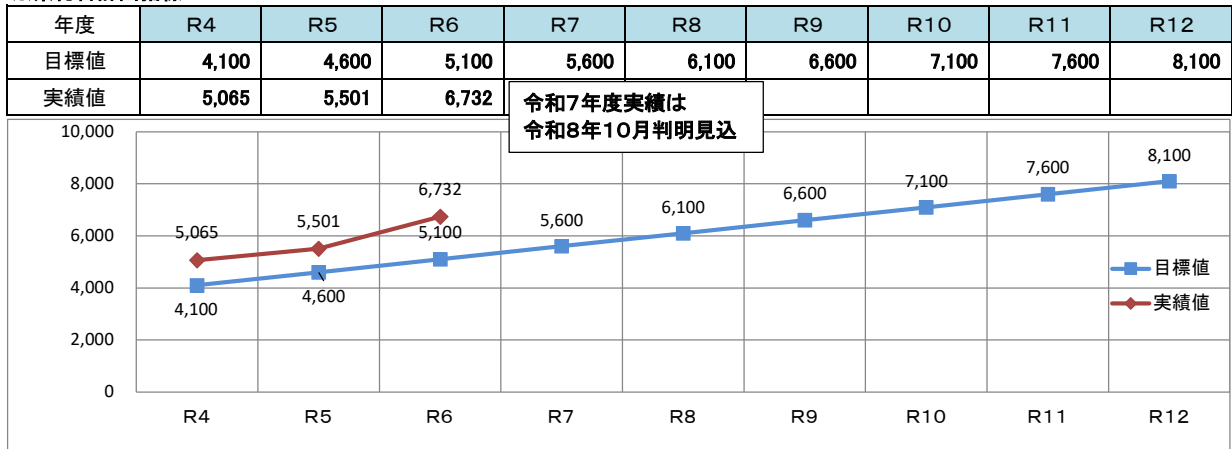
【指標の評価方法】 A: 100%以上 B: 99~80% C: 79~70% D: 69%以下

No.19 福島県教育旅行学校数 【目標値: 8,100校(令和12年度)】

評価

—

※県総合計画指標

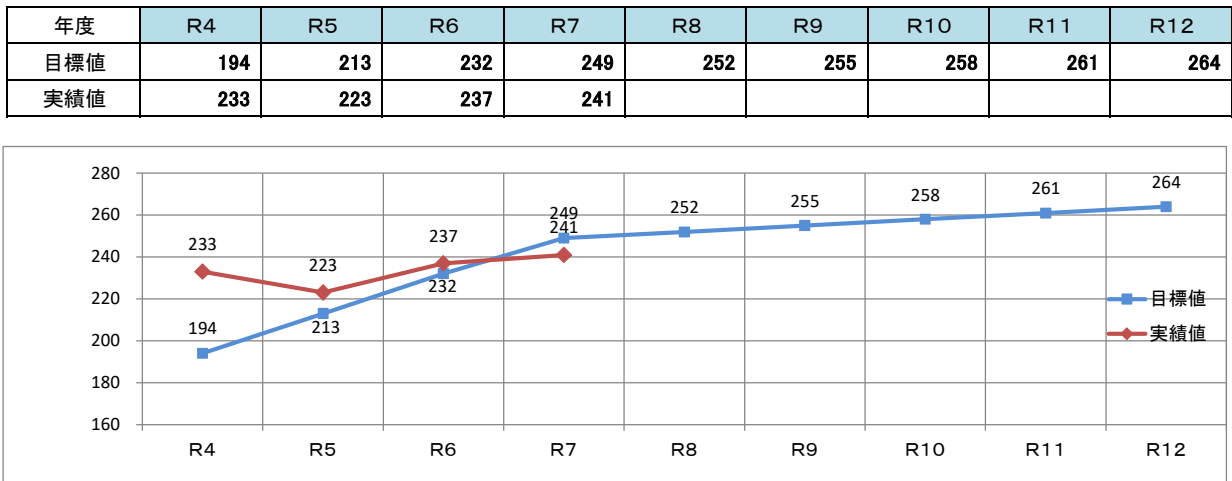


令和5年度と 令和6年度の 比較	- 令和6年度の学校数(6,732校)は、新型コロナウイルス感染症の影響が薄れ、首都圏や近隣県からの入込数のほか、遠方の近畿地方などからの入込が増加し、順調に回復している。 ※令和7年度の学校数については令和8年10月頃判明見込。
今後の取組	- 教育旅行先を本県とする近隣県をはじめ近畿地方の学校が増加していることを踏まえ、ターゲットを絞って営業活動を行っていく。 - 引き続き、探究型プログラムを充実させ、教育旅行の多様なニーズに応えられる体制を整える。 - 過年度のバス助成実績データの分析によりターゲットを明確にし、バス助成事業を活用した営業活動を継続して実施する。

No.20 声楽アンサンブルコンテスト全国大会の推薦及び公募団体数 【目標値: 264団体以上(令和12年度)】

評価

B



達成状況	令和7年度は、全国の合唱連盟への継続したPRや、X(旧Twitter)を活用した広報などによる周知に努め、全国大会として認識が定着するなどの結果、推薦団体は歴代2番目に多い数であり、公募審査申込団体数も昨年度より増加したが、目標値には達しなかった。
今後の取組	引き続き、大会の周知を強化するなど、関係者と申し込み団体数の増加に向け、検討を重ねていく。

(再掲)No.6 東日本大震災・原子力災害伝承館の入館者数
【目標値:101,000人(令和12年度)】

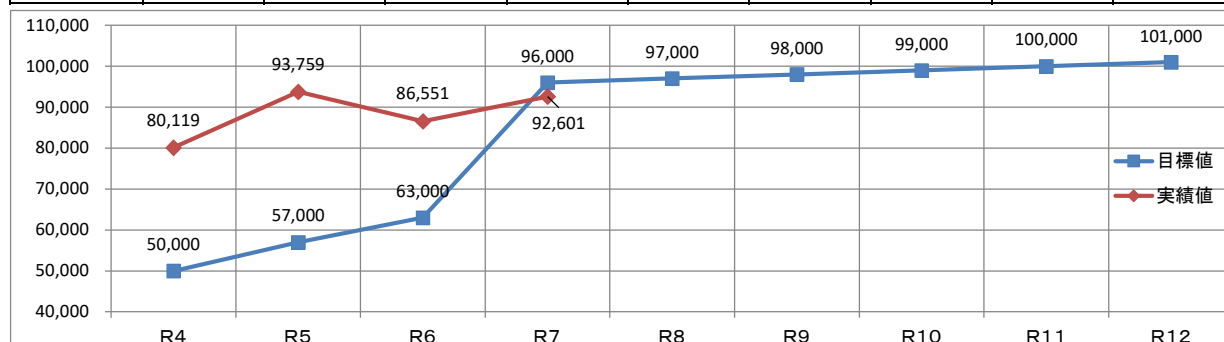
評価

B

※県総合計画指標

令和7年度～ 指標目標値見直し

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	50,000	57,000	63,000	96,000	97,000	98,000	99,000	100,000	101,000
実績値	80,119	93,759	86,551	92,601					



達成状況

・令和7年度、入館者数の目標値を見直した。
・令和7年度の入館者数としては、92,601人(前年度比106.9%)となり、開館以来2番目の多さとなった。
・令和7年7月30日のカムチャツカ半島沖地震に伴う津波注意報と津波警報の発令や、12月9日の初の「北海道・三陸沖後発地震注意情報」の発令、令和8年3月11日に震災と東京電力福島第一原子力発電所事故から15年となったことなど、自然災害や東日本大震災への注目が高まったことが原因と考えられ、特に個人の来館者が増えた。

今後の取組

・県が推進するホープツーリズムの中核施設であり、「学びの施設」としての伝承館の質・魅力を向上させていくため、分かりやすい展示内容の更新、語り部の研修、魅力的な企画展やロビー展の開催に加え、研究事業とタイアップした研修プログラムの充実を図る。
・イベントに併せたニュースリリースに加え、ホームページの充実やインターネット広告などにより、周知を図る。
・「事前学習プログラム」も活用しながら、教育旅行の誘客活動を進めていく。

No.21 ホープツーリズム催行件数

【目標値:500件(令和12年度)】

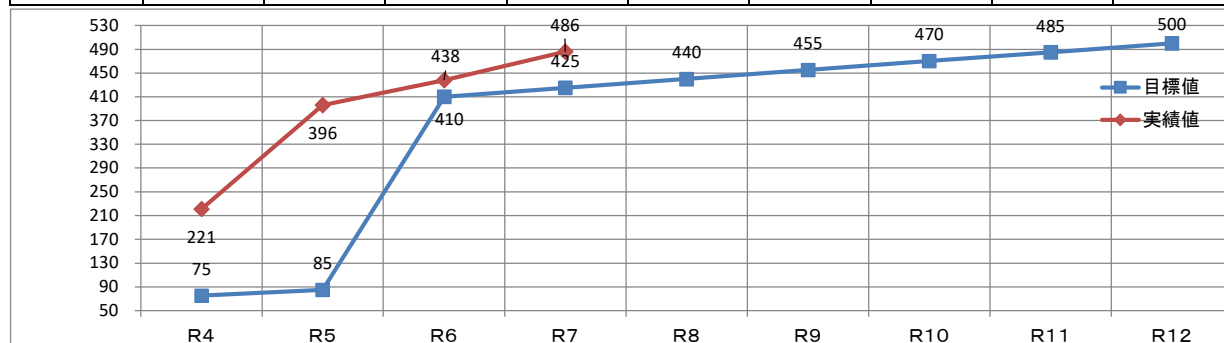
評価

A

※県総合計画指標

令和6年度～ 指標目標値見直し

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	75	85	410	425	440	455	470	485	500
実績値	221	396	438	486					



達成状況

・教育旅行はほぼ横ばいであったが、フィールドパートナー研修を受講した多言語ガイド等によるインバウンド団体への案内数が伸びたことにより、催行件数の増加につながった。

今後の取組

・伝承館プログラムの対応ができるフィールドパートナーの人材育成を行い、その中から、更に1泊2日にも対応できるフィールドパートナーの人材育成を引き続き行う。
・インバウンドにも対応できるよう英語対応が可能なフィールドパートナーの育成研修を行う。
・企業研修版ホープツーリズムの顧客獲得に向けて、プログラムの造成・検証を行い、PR動画を活用した営業を行う。

※ホープツーリズム:複合災害の教訓等から「持続可能な社会・地域づくりを探究・創造する」新しいスタディツアー

※フィールドパートナー:ツアー中のアテンドやファシリテートを担当する方(総合案内人)

※ホープツーリズムガイド:一般観光客向けのガイド

推進施策 8 文化振興による地域づくり

地域の祭りや伝統行事、歴史的な建造物など多様な資源の文化的価値をいかして、地域コミュニティの維持・強化や、産業、観光等の様々な分野との連携による魅力づくりなどの地域活性化に取り組みます。

(1) 文化資源をいかした産業等の振興・地域づくり

令和7年度の主な取組実績

(1) 文化資源をいかした産業等の振興・地域づくり

○ チャレンジふくしま県民運動推進事業（文化振興課）【29,755千円】

「人も地域も笑顔で元気なふくしま」を実現するため、健康、運動、食、文化等の関係団体が連携し、県民一人一人の日常的な健康づくりの実践のみならず、地域全体の盛り上がりにつながるよう、多方面から健康への気付きやきっかけづくりの提供等を行います。

■ 「アートとウォーキングを組み合わせた取組「ふくしまアートウォーキング」を推進

◆ 令和7年9月1日～令和8年3月1日

ふくしまアートスタンプラリー（うちウォーキングラリー） スタンプ取得数2,284

◆ 令和7年9月27日～28日 ふくしまアートウォーキングPRブース出展（郡山市）393名参加

◆ 令和7年10月26日 ふくしまアートウォーキングPRイベント（会津若松市）97名参加

◆ 令和8年2月7日 ふくしまアートウォーキングPRイベント（いわき市）798名参加

■ 県民運動ポータルサイトにて、県内各地の健康づくりイベントを「県民運動イベント」として周知

◆ 県民運動イベント登録数（令和8年3月末） 800件

○ 「ふくしまの棚田」魅力・認知度アップ事業（農村振興課）【2,064千円】

棚田を核とした地域振興を図るため、棚田地域の魅力向上を支援するとともに、棚田に対する認識を広めるための情報発信等に取り組んでいます。

■ 棚田地域振興法に基づく棚田指定地域 12地域（旧市町村）

同 棚田地域振興活動計画認定 6棚田協議会

■ 「ふくしまの棚田」推し活デジタルスタンプラリー2025

令和7年7月12日～9月23日 14カ所の棚田を対象 376人が参加

■ 「ふくしまの棚田」推し活フェア2025

■ 「ふくしまの棚田」魅力アップ事業 4棚田保全組織に補助金交付

■ 「ふくしまの棚田」サミット 棚田に関わる関係者19名が参加。

○ 「歳時記の郷・奥会津」活性化事業（地域振興課）【155,167千円】

「自然のなかに暮らしいとなみ、100年先のみらいへ」を基本理念として、本県を代

表する水力発電地域である只見川流域7町村が実施する地域振興を支援しています。

- 只見川電源流域振興協議会が行う只見川流域の振興に資するソフト事業1事業と各構成町村が行うハード事業2事業の計3事業を支援

- ① 「歳時記の郷・奥会津」活性化事業（只見川電源流域振興協議会）
- ② フェアリーランドかねやまスキー場施設整備事業（金山町）
- ③ ひのえまた総合公園施設整備事業（檜枝岐村）

○ 福島ゆかりのコンテンツによる地域活力創造事業（地域振興課）【36, 587千円】

本県ゆかりの特撮等のコンテンツを地域の宝として有効に活用しながら交流人口拡大や人材還流促進に取り組むことで、福島県全域の活力創造を目指しています。

- 「大冒険！ウルトラマンARスタンプラリーinふくしま2025」の開催

- ◆ 実施期間 令和7年7月17日～11月30日
- ◆ 参加者数（※アプリのユニークユーザー数）：26, 109名
- ◆ 施設周遊数（※ユーザーによるスタンプ獲得数）：97, 517個

- 特撮文化推進事業実行委員会事業への参画

- ◆ 「ふくしま特撮検定2025」の開催（令和7年7月7日～9月21日） 305名参加
- ◆ 特撮ワークショップの実施（11月15日 福島市） 49名参加
- ◆ 特撮レジェンドオーラルヒストリー公開
円谷英二監督と共に活躍した方、弟子にあたる方などの証言の口述記録を公開
- ◆ 特撮資料アーカイブパネル展&ギャラリートークの開催（令和8年2月9日～2月14日 須賀川市） 400名参加

○ ふくしまアート新発見事業（文化振興課）【19, 372千円】

大ゴッホ展に向けた機運を醸成するとともに、県内にある美術館や博物館などを気軽に訪れ、直接アートに触れる機会を創出することで、アートを通してふくしまの新たな魅力を発見し、潤いのある心豊かな暮らしの実現を図っていきます。図っていきます。

- 絵画コンクール作品募集 令和7年8月～9月末にかけて実施
出品作品数 589件（小学生288件 中学生231件 高校生70件）
- 公募展覧会の開催（令和7年12月12日～令和8年1月12日 福島市）
- ゴッホ専門家 吉屋敬氏を講師に招いた講演会を開催 130名参加
- スタンプラリーを開催 令和7年9月1日～令和8年3月1日
登録者 2, 400名 累計施設訪問数 13, 800回

○ ふくしまデスティネーションキャンペーン事業（観光交流課）【661, 943千円】

ふくしまプレDC期間中に「アートを活用した周遊施策」を実施し、福島県の魅力をアートという切り口で再発見してもらい、魅力的なスポットを発掘するとともに、その魅力

を全国に向けて発信しています。

■ ふくしまアートインスピレーションフォトコンテストの実施

出品作品数 1,893件 計9作品を選出

■ ふくしまアートフォトワークショップの開催

プロカメラマンによる小学生・保護者向け 24名参加

■ 応募作品のアート化

応募作品をもとに、浜通り・中通り・会津・福島全体をテーマにしたDCシンボルアート4作品を制作

令和8年度の主な取組

- みんなで実践 チャレンジふくしま県民運動推進事業（文化振興課）【29,855 千円】
- 棚田地域振興事業（農村振興課）【7,483 千円】
- 「歳時記の郷・奥会津」活性化事業（地域振興課）【199,988 千円】
- 福島ゆかりのコンテンツによる地域活力創造事業（地域振興課）【44,779 千円】
- 国際芸術鑑賞事業（文化振興課）【2,157 千円】
- ふくしまアート新発見事業（文化振興課）【25,314 千円】
- ふくしまデスティネーションキャンペーン事業（観光交流課）【667,826 千円】
- 社会基盤施設等探訪事業（まちづくり推進課）【10,000 千円】

指標から見た施策の進捗状況

【指標の評価方法】 A:100%以上 B:99~80% C:79~70% D:69%以下

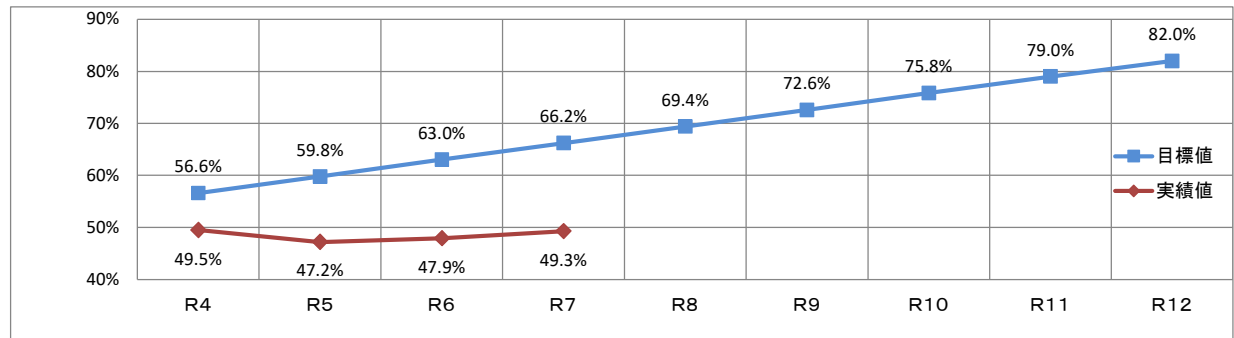
(再掲)No.17 本県の豊かな自然や美しい景観が保全され、野生鳥獣との共生が図られていると回答した県民の割合【目標値:82.0%以上(令和12年度)】

評価

C

※県総合計画指標(県政世論調査による意識調査項目)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	56.6%	59.8%	63.0%	66.2%	69.4%	72.6%	75.8%	79.0%	82.0%
実績値	49.5%	47.2%	47.9%	49.3%					



達成状況	・豊かな自然や美しい景観を文化的な自然として活用し、野生鳥獣との共生を図ることで、県民がその価値を再認識して保全の推進にも繋げるよう取組を進めており、前年度より数値が上昇したものの、浜通り地方で低くなっている。太陽光パネル設置に関する景観問題や近年のツキノワグマ等の野生鳥獣による被害等の影響も一因として考えられる。目標達成のためには更なる取組の強化が必要である。
今後の取組	・地域の文化財や歴史的な建造物、街並み、美しい景観などを、文化的価値のある資源として活用していくため、観光や産業との連携を促進していく。

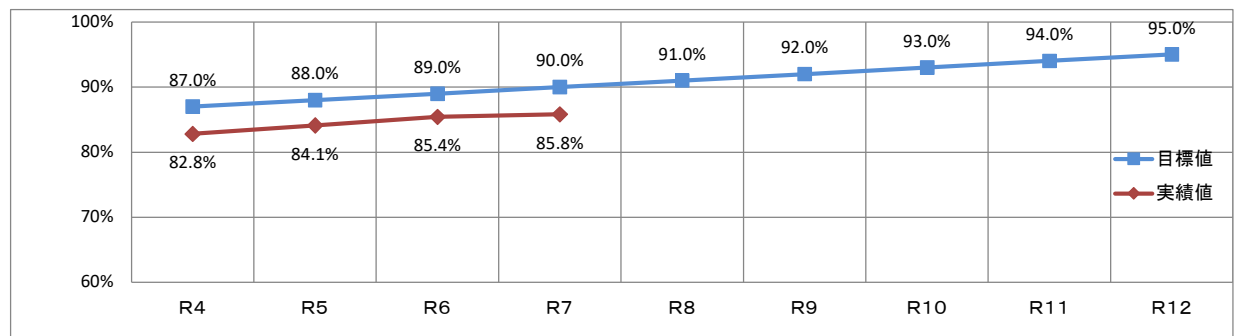
(再掲)No.18 自然と伝統が残る農山漁村地域を大切にしたいと回答した県民の割合【目標値:95.0%以上(令和12年度)】

評価

B

※県総合計画指標(県政世論調査による意識調査項目)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	87.0%	88.0%	89.0%	90.0%	91.0%	92.0%	93.0%	94.0%	95.0%
実績値	82.8%	84.1%	85.4%	85.8%					



達成状況	・8割以上の県民が自然と伝統が残る農山漁村地域を大切にしたいと回答しており、伝統を継承してく重要性は多くの県民に認識されており、概ね目標を達成した。
今後の取組	・より多くの県民に伝統文化の重要性を再認識してもらうため、地域に伝わる民俗芸能の継承や再開の支援、発表の機会の確保に引き続き努めていく。 ・文化財を含めた伝統文化を地域のたからとして継承しつづけていくために、文化財保存活用地域計画の作成支援や、観光など地域で様々な形で活用し、その価値や役割を高めていく。

No.22 観光客入込数

【目標値:60,000千人(令和12年)】

評価

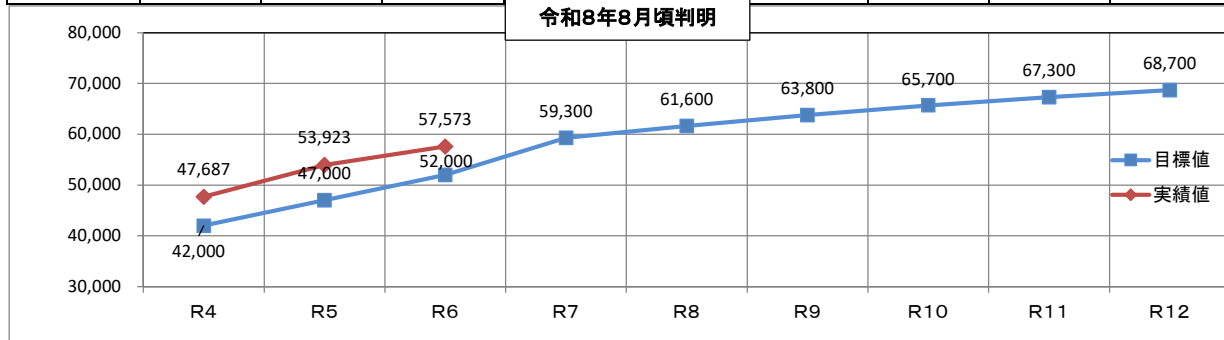
—

※県総合計画指標

令和7年～ 指標目標値見直し

(単位:千人)

年	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	42,000	47,000	52,000	59,300	61,600	63,800	65,700	67,300	68,700
実績値	47,687	53,923	57,573	令和7年実績は 令和8年8月頃判明					



令和5年度と 令和6年度の 比較	・令和6年度において、インバウンドの回復や国内旅行の増加などにより、前年を上回る増加が期待できるほか、円安の影響により国内旅行需要が増加している。 ※令和7年度の実績値については令和8年8月頃判明見込。
今後の取組	・安定的で継続的な観光需要を獲得するには、「地域としての魅力」により「ふくしま」のファンを獲得する必要がある。中長期的な視点を持って地域の観光を育てる必要がある。そのため県内各地域の関連団体等に対し、人材確保や観光コンテンツの掘り起こし・磨き上げなどのフォローアップを実施し、将来、地域が主体となって観光づくりを進めていけるよう支援する。

No.23 国内外の友人・知人に対して、自信を持って紹介できる地元のもの(自然、特産品、観光、文化など)があると回答した県民の割合

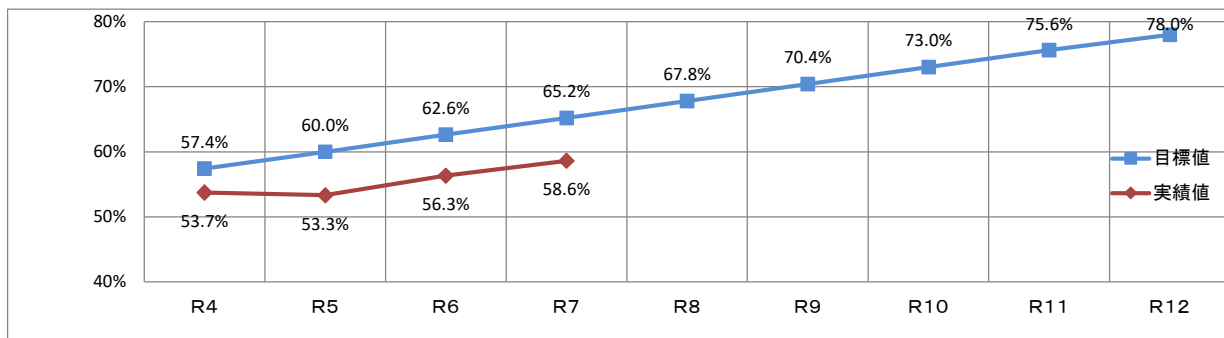
【目標値:78.0%以上(令和12年度)】

評価

B

※県総合計画指標(県政世論調査による意識調査項目)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	57.4%	60.0%	62.6%	65.2%	67.8%	70.4%	73.0%	75.6%	78.0%
実績値	53.7%	53.3%	56.3%	58.6%					



達成状況	・県内各地の風土に培われた地域の民俗芸能、合唱王国福島に代表される芸術文化、食や美しい自然・伝統工芸など福島の魅力の発信を通じて、県民が多様な文化資源を地域の宝として再認識することで、地域への誇りや愛着を育み、数値が上昇している。
今後の取組	・地域のまつりや民俗芸能など伝統文化の継承や発展、地域の文化財の保存や活用促進、芸術文化の発表や鑑賞機会の確保などに努め、地域への誇りや愛着を高める取組を進めていく。

令和7年度 文化振興基本計画指標の達成状況について

【参考】

No.	指標名	現状値		R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値 (令和12年度)	区分	該当施策
1	文化活動やスポーツ活動に積極的に参加していると回答した 県民の割合（鑑賞を含む）	R3年度 31.7%	目標値	34.0%	36.3%	38.6%	40.9%	43.2%	45.5%	47.8%	50.1%	52.0%以上	総合計画指標	施策1 意識調査項目
			実績値	31.2%	30.2%	33.9%	31.2%							
			評価	B	B	B	C							
2	市町村生涯学習講座受講者数（人口千人当たり）	R2年度 214人	目標値	400人	560人	650人	680人	710人	720人	730人	740人	750人	総合計画指標	施策1
			実績値	441人	479人	550人	540人							
			評価	A	B	B	C							
3	福島県芸術祭参加行事数	R2年度 38件	目標値	110件	115件	120件	125件	127件	129件	131件	133件	135件	総合計画指標	施策1
			実績値	101件	115件	113件	127件							
			評価	B	A	B	A							
4	県立美術館の入館者数	R2年度 11,915人	目標値	100,000人	100,000人	100,000人	100,000人	100,000人	100,000人	100,000人	100,000人	100,000人	総合計画指標	施策2・6
			実績値	60,612人	86,338人	100,968人	433,307人							
			評価	D	B	A	A							
5	県立博物館の入館者数	R2年度 65,632人	目標値	105,500人	116,500人	129,000人	129,000人	129,000人	129,000人	129,000人	129,000人	129,000人	総合計画指標	施策2・6
			実績値	188,323人	96,274人	113,516人	97,021人							
			評価	A	B	B	C							
6	伝承館の入館者数	R2年度 43,750人	目標値	50,000人	57,000人	63,000人	96,000人	97,000人	98,000人	99,000人	100,000人	101,000人	総合計画指標	施策2・6・7
			実績値	80,119人	93,759人	86,551人	92,601人							
			評価	A	A	A	B						前回、指標の目標値を上方修正	
7	アクアマリンふくしまの入館者数	R2年度 339,855人	目標値	360,000人	429,000人	480,000人	500,000人	520,000人	540,000人	560,000人	580,000人	600,000人	独自指標	施策2・6
			実績値	584,564人	611,040人	622,746人	639,520人							
			評価	A	A	A	A							
8	県文化財センター白河館の入館者数	R2年度 11,249人	目標値	30,000人	30,000人	30,000人	30,000人	30,000人	30,000人	30,000人	30,000人	30,000人	総合計画指標	施策2・4・6
			実績値	11,976人	14,383人	17,442人	17,679人							
			評価	D	D	D	D							
9	福島県文化センター利用料金免除件数	R2年度 65件	目標値	71件	78件	84件	91件	97件	100件	103件	106件	109件	独自指標	施策1・2・6
			実績値	46件	49件	9件	0件							
			評価	D	D	－	－						休館期間中であるため、令和6、7年度は、評価対象外	
10	声楽アンサンブルコンテスト全国大会のライブ配信視聴者数	R2年度 997人	目標値	1,260人	1,240人	1,210人	1,160人	1,220人	1,280人	1,340人	1,410人	1,480人	独自指標	施策2
			実績値	547人	573人	686人	717人							
			評価	D	D	D	D							
11	青少年の県総合美術展覧会への出品数	R3年度 160点	目標値	200点以上	200点以上	200点以上	200点以上	200点以上	200点以上	200点以上	200点以上	200点以上	独自指標	施策3
			実績値	169点	209点	157点	137点							
			評価	B	A	C	D							

No.	指標名	現状値		R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	目標値 (令和12年度)	区分	該当施策
12	青少年の県文学賞への応募数	R3年度 71点	目標値	71点以上	71点以上	71点以上	71点以上	71点以上	71点以上	71点以上	71点以上	71点以上	独自指標	施策3
			実績値	39点	37点	56点	124点							
			評価	D	D	C	A							
13	ふるさとの祭り参加民俗芸能団体数	R2年度 累計168団体	目標値	208団体	228団体	248団体	268団体	288団体	308団体	328団体	348団体	368団体	独自指標	施策4
			実績値	203団体	224団体	247団体	268団体							
			評価	B	B	B	A							
14	市町村における文化財保存活用地域計画を作成した市町村数	R2年度 0市町村	目標値	2市町村	3市町村	4市町村	5市町村	6市町村	7市町村	8市町村	9市町村	10市町村	総合計画指標	施策4
			実績値	2市町村	3市町村	3市町村	4市町村							
			評価	A	A	C	B							
15	食育実践サポーター派遣事業実績(登録者数)	R2年度 236人	目標値	240人	242人	244人	246人	248人	250人	252人	254人	256人	独自指標	施策5
			実績値	234人	247人	244人	245人							
			評価	B	A	A	B							
16	地元産の食材を、積極的に使用していると回答した県民の割合	R3年度 74.6%	目標値	76.4%	78.2%	80.0%	81.8%	83.6%	85.4%	87.2%	89.0%	90.0%以上	総合計画指標	施策5 意識調査項目
			実績値	72.2%	74.2%	72.7%	73.2%							
			評価	B	B	B	B							
17	本県の豊かな自然や美しい景観が保全され、野生鳥獣との共生が図られていると回答した県民の割合	R3年度 53.4%	目標値	56.6%	59.8%	63.0%	66.2%	69.4%	72.6%	75.8%	79.0%	82.0%以上	総合計画指標	施策5・8 意識調査項目
			実績値	49.5%	47.2%	47.9%	49.3%							
			評価	B	C	C	C							
18	自然と伝統が残る農山漁村地域を大切にしたいと回答した県民の割合	R3年度 86.0%	目標値	87.0%	88.0%	89.0%	90.0%	91.0%	92.0%	93.0%	94.0%	95.0%以上	総合計画指標	施策5・8 意識調査項目
			実績値	82.8%	84.1%	85.4%	85.8%							
			評価	B	B	B	B							
19	福島県教育旅行学校数	R元年度 6,941校	目標値	4,100校	4,600校	5,100校	5,600校	6,100校	6,600校	7,100校	7,600校	8,100校	総合計画指標	施策7
			実績値	5,065校	5,501校	6,732校	令和7年度実績は 令和8年10月判明見込							
			評価	A	A	A	－					数値未確定のため、評価対象外		
20	声楽アンサンブルコンテスト全国大会の推薦及び公募団体数	R2年度 156団体	目標値	194団体	213団体	232団体	249団体	252団体	255団体	258団体	261団体	264団体	独自指標	施策7
			実績値	233団体	223団体	237団体	241団体							
			評価	A	A	A	B							
21	ホープツアーリズム催行件数	R2年度 63件	目標値	75件	85件	410件	425件	440件	455件	470件	485件	500件	総合計画指標	施策7
			実績値	221件	396件	438件	486件							
			評価	A	A	A	A					前回、指標の目標値を上方修正あり		
22	観光客入込数	R2年 36,191千人	目標値	42,000千人	47,000千人	52,000千人	59,300千人	61,600千人	63,800千人	65,700千人	67,300千人	68,700千人※	総合計画指標	施策8
			実績値	47,687千人	53,923千人	57,573千人	令和7年実績は 令和8年8月頃判明							
			評価	A	A	A	－					指標の目標値を上方修正、数値未確定のため、評価対象外		
23	国内外の友人・知人に対して、自信を持って紹介できる地元のもの(自然、特産品、観光、文化など)があると回答した県民の割合	R3年度 54.8%	目標値	57.4%	60.0%	62.6%	65.2%	67.8%	70.4%	73.0%	75.6%	78.0%以上	総合計画指標	施策8 意識調査項目
			実績値	53.7%	53.3%	56.3%	58.6%							
			評価	B	B	B	B							

※ No.22の「観光客入込数」に係る目標値の設定は令和12年となる。